

自治研究 かながわ

1987
7

No.10(通算74) '87年統一自治体選挙の記録

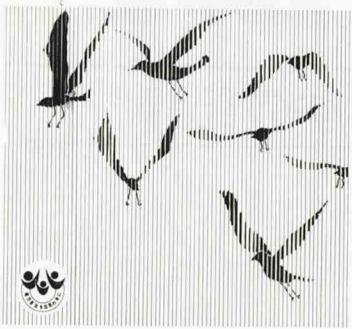


法人 神奈川県地方自治研究センター

自治研究月報

かながわ 1987
7

No.10(通算74) '87年統一自治体選挙の記録



監修 神奈川県地方自治研究センター

もくじ * * * CONTENTS

統一自治体選挙の結果をどうみるか

中央大学教授 横山桂次

1. 統一自治体選挙結果の特徴.....	1
2. 知事選挙の結果から.....	2
3. 都道府県・政令市議員選挙等の結果から....	5
4. 後半戦、市町村長・市町村議員の選挙結果	8
5. めざましい女性の進出.....	11
質疑応答.....	13

県内の'87統一自治体選挙の結果を分析する

地方自治研究センター事務局

1. 選挙の投票率をめぐって.....	15
2. 知事・県議選挙.....	16
3. 政令市長・市議選挙.....	19
4. 市長・市会・町長・町議選挙.....	22

'87統一自治体選挙結果 資料編.....	30
-----------------------	----

統一自治体選挙の結果をどうみるか

中央大学教授

横山桂次

(神奈川県地方自治研究センター副理事長)

1. 統一自治体選挙結果の特徴

今度の選挙について今までかなり分析が行われておりますし、改めて特に新しいことを言うつもりもありませんが、私なりに整理してみると今度の選挙の特徴というのはほぼ三つ位に分けられるだろうと思います。

ひとつは、国政上の争点が自治体選挙に非常に大きな影響を与えたということです。これは最初から予想された事であります。そのきっかけとなったのは岩手の参議院選挙であります。これがきっかけとなって大きな風が吹いたといいますか、選挙に大きな影響を与えたと言えるわけですが、逆に又その結果が国政に変化を与えたということでは、今までの自治体選挙ではみられなかった現象だろうと考えられるわけです。売上税がクローズアップされていますが、売上税だけではなくて軍事費のG N P 1%突破であるとか、あるいは国家秘密法案であるとか、それらを含めて中曾根政府の政治姿勢、特に公約違反の問題は、代議制民主主義ひいては政党政治にかかる大きな問題として凝縮されてきたということです。

実はこれは野党が結集して反撃したということもあるのですが、有権者の側からみると、特に女性に強く批判されたということがこの問題の大きな特徴だろうと思います。もうひとつ、指摘できることは、自民党が前回のダブル選挙で304議席を獲得しその上で今度のようなことになるわけですけれども、その問題について自民党の内部で有権者の公約違反という反応に対応しようとする党内の良識派や若い人たちが中心となって自民党の中で批判を始めたということが、自民党内部の大きな特徴だと思うのです。このことは後でもう一度別の角度から触れたいと思いますが、そういった点が第一に指摘できると思います。

第2番目は、行政学者などが言っているような新々中央集権、つまり第2臨調以来の地域を犠牲にするような中央の政策、それに円高不況が加わって中央政府に対する批判が強まってくる。これは今回だけでなく、これまでの中央政府が地域に対してとってきた諸政策が今度の問題をきっかけとして噴き出してくる、それが北海道の知事選では非常に典型的に出てきたということです。2番目に指摘できるのは、一言でいえば中央に対する地方の反発という言い方ができると思います。

3番目は、これは神奈川もそうなんですが、

女性がかなり大量に政治のレベルに登場してきたという事です。その中で特に神奈川の場合は、地域政党をつくるという形をとって現れてきています。

以上の3つを私なりに一言で要約すれば、石油ショック以降大きく変化した社会・経済の構造に、政治の方が対応できないという問題だろうと思うのです。それを仮に女の立場から言いますと、男の造ってきた政治ということになるわけですが、戦後日本の中で造り上げられてきた政治に対して批判が出てきたと言えるのではないかと考えているわけです。それを例えばエスタブリッシュト（既成権力・権威）に対する批判という言い方をしてもいいと思いますが、大体そういう点に要約できるでしょう。

2. 知事選挙の結果から

では次に、前半の知事選、県議選、そして後半の女性の進出も含めた市議選のことを簡単にみようと思います。

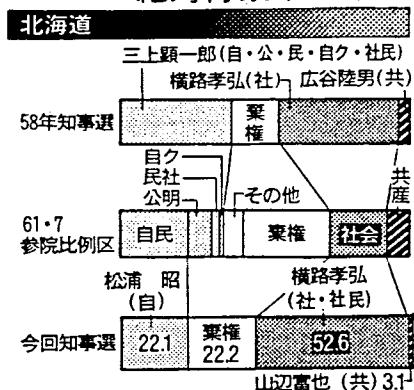
知事選で注目された選挙は3つあります。ひとつは、北海道の知事選と福岡の知事選、これは保革対決というか自民党が最も力をいれた選挙ですが、この2つと東京の知事選をとりあげようと思います。新聞等の分析でも、やはり知事選にも売上税の風が吹いたといわれていますが、少し詳しく資料をみてみると、必ずしも売上税だけではない、かなり重要な問題が出てきています。

(1) 北海道知事選挙

北海道の横路知事の場合、知事に就任してか

2 統一自治体選挙の結果をどうみるか

図1 主な知事選にみる
絶対得票率の動き



らずっと北海道新聞をはじめ新聞が調査をしていますが、支持率が60%を超えるという結果がでています。特に選挙の前に行われた調査では70%以上になっているというような事からみますと、横路道政がかなり定着してきたということが言えます。その原因は彼の人柄にもよるわけですが、まず初めに彼が力を入れた町村サミットであります。その中で出てきた問題を道政に反映させていることが、全般的に評価を高くしているということになると思います。

それからもうひとつ、対抗馬として出てきた自民党側の松浦候補は、北海道の抱えている様々な問題、農業では減反の問題、酪農では乳製品自由化の問題、漁業では200カイリ問題、閉山や国鉄のローカル線の廃止といったような深刻な問題に対して、従来のように中央依存で解決しようと訴えた。その為に農林水産省の出身であることを強調したわけですけれども、実はこれがマイナスに作用した面も大きかったと思われます。それに対して横路の方は、自力更正といいますか、一緒に汗を流そう、北海道は独自の立場で北海道の振興を考えようとした。

一方、道民に現れた反応で注目されるのは、この2つの対立に触発されたことがある

かもしれません、中央依存の気持ちが強い土地柄でありながら、今回は、自民党政権は今まで何をしてくれたのかという中央に対する激しい反発がいたる所でみられるわけです。これがかなり大きな要因だろうと思います。選挙の細かいデータはともかくとして、前回の選挙で横路票が保守候補に追いつかなかった地域が沢山ありましたが、今回は恵庭や千歳など自衛隊が比較的住民の中でウェイトをしめているような所でも横路の方が優勢であったし、保守的といわれている十勝、帯広、網走というような

所でも横路は圧倒的に対立候補を引き離しています。そういう点からみますと、北海道はかなり変わってきたという印象を受けるわけです。

道会議員の選挙でみると、社会党は13人の革新系無所属を推薦していますが全員当選しています。事実上最大の与党になるわけですが、無所属候補者の年令は比較的若くて、そういう人たちが登場してきたということと、横路知事が定着して高い支持を得ているということから考えますと、北海道は横路に代表されるような新しい政治家像が求められていると言えるのでは

表1 知事選確定得票
(当選者氏名の次に丸で)
(囲んだ数字は当選回数)

◇北海道			
当 横路 孝弘②	無現	2,110,730	(社・民推廁)
松浦 昭	無新	887,306	(自推廁)
山辺 富也	無新	125,604	(共推廁)
◇岩手県			
当 中村 直③	自現	461,711	
高橋 節郎	無新	284,458	(社・民推廁)
柏 朔司	共新	45,803	
◇秋田県			
当 佐々木喜久治③	無現	562,410	(自・公・民推廁、社支持)
高橋 清人	共新	164,449	
◇茨城県			
当 竹内 蔵男④	無現	535,147	(自・民推廁、公支持)
奈良 達雄	共新	155,045	
◇東京都			
当 鈴木 俊一③	無現	2,128,476	(自・公・民推廁)
和田 静夫	無新	749,659	(社推廁)
畠田 重夫	無新	698,919	(共推廁)
◇神奈川県			
当 長洲 一二④	無現	2,281,967	(自・社・公・民推廁、民支持)
岡村 共榮	共新	424,124	
山本 正治	諸新	244,628	
◇福井県			
当 栗田 幸雄①	無新	304,474	(自・社・公・民推廁)
金井 兼造	無新	98,555	
嵐山 繁樹	共新	53,037	

◇大阪府			
当 岸 昌③	無現	2,224,379	(自・社・公・民・娘推廁)
角橋 徹也	無新	1,112,660	(共推廁)
◇鳥取県			
当 西尾 邑次②	無現	289,214	(自・民推廁、社・公支持)
田原 勇	共新	57,013	
◇島根県			
当 澄田 信義①	自新	250,947	
小田川岩雄	無新	212,851	(社・娘推廁)
稗田 秀男	共新	27,283	
◇福岡県			
当 奥田 八二②	無現	1,263,123	(社・共・娘推廁)
田中 健蔵	無新	1,135,196	(自・公・民推廁)
◇佐賀県			
当 香月 熊雄③	無現	324,413	(自推廁)
三宅 秀夫	共新	104,076	
◇大分県			
当 平松 守彦③	無現	612,193	(自・公・民推廁、社支持)
明 次郎	共新	114,268	
◇札幌			
当 板垣 武四⑤	無現	516,883	(自・公・民推廁)
田村 正敏	無新	169,459	
中神 凡夫	無新	82,592	(共推廁)
◇川崎			
当 伊藤 三郎⑤	無現	299,445	(社・民・共・娘推廁、公支持)
永井 英慈	無新	167,036	(自推廁)

ないか。これは自民党の大物議員が落ちているということとひきあわせて考えると、北海道は少しずつ政治的に変わりつつあると考えられると思います。

(2) 福岡県知事選挙

福岡知事選の方は、前回は知事公舎に問題があったし、今回は売上税の問題があって、奥田さんという人は運の強い人だといわれていますが、ここでもやはり特に農村地帯で、中央政府の農政に対する批判、特に減反に対する批判、米の自由化に対する批判などが保守候補に対する批判として出てきました。もうひとつは、奥田さんは就任以来、県民との対話集会や県民大学といったような絶えず県民と積極的なコミュニケーションをはかる努力を積み重ね、県政を定着させてきたと言えます。それから今回は特に農村地帯と地場産業を持っている地域で支持が高くなっていますが、これは彼が力をいれている県産品運動というものが今回の選挙にかなり影響を与えていたり思っています。

それから付随的な事ですが、奥田さんは就任してから随分いじめられていました、「奥田いじめ」という言葉がマスコミに登場したほどです。これが逆に県民の反発を買って、議会でい

じめの先頭にたってきただけが落とされています。全体からみると保守側の田中候補が売上税の問題で煮えきらない態度をとったり、中央政府の干渉もあって態度が二転三転したということも含めれば、売上税のおかげとも言えると思いますが、それ以外に今申し上げたような事もあります。福岡というのは最も古い形の社共共闘が行われた所で、それがマイナス効果よりもプラス効果の方が上回ったといえると思います。この点では、東京・練馬の選挙では逆にマイナス効果の方が大きくなっています。

(3) 東京都知事選挙

3番目に取り上げたいのは、東京の知事選です。これは革新側が勝利するかどうかという問題ではなくて、結論からいえば、美濃部選挙以来の社共共闘型が完全に崩壊したということです。社会党は都知事選に関しては完全にリーダーシップを失ったといって良いでしょう。ですから、今後東京で革新知事が誕生する可能性は、かなり難しくなってきたのではないかと思います。従来の社共共闘型に代わってどういう選挙の形態が生まれるかはわかりませんが、当分の間、革新都知事というものが誕生しないだけは確かだと思います。共産党と社会党が対立し

図2 福岡

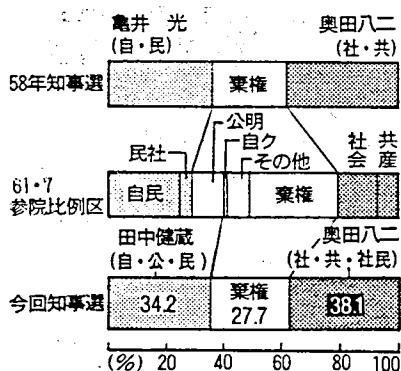
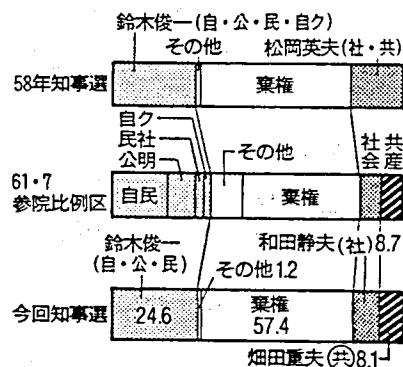


図3 東京



て候補者を出したということは、東京のまちづくりといった問題について、政策の選択を有権者に可能にするという選挙にならなかったという事です。その点が一番大きな問題だらうと思います。

今東京は地価が高騰するという問題を抱え、四全総などもあり、最近は民間の開発で東京湾を大々的に埋め立てて開発するというような構想もでています。石油ショック以降の先端技術を駆使した情報産業をベースとした経済基盤が再び東京に移りつつある、そういった東京の問題、ひいては東京以外の地域にも様々な影響を与えるわけですけれども、そのような問題が論議されなかつたということを都知事選では指摘しておいた方が良いと思います。

3. 都道府県・政令市議員選挙等の結果から

(1) めだつ社会党の躍進

次に県議選についてみますと、全般的に自民党は敗退し105人減となり、代わって野党、特に社会党が議席を実に71人増大させるということが顕著でした。新聞の資料ですが、地域別でみると、自民党は33都道府県で得票率・議席ともに減らしています。特に滋賀、岐阜、熊本、千葉といった所が非常に落ち込んでおります。今まで保守が絶対に強かった東北、北陸、九州などでも落ち込んでいる。社会党の絶対得票率が特に伸びた所は群馬県で、30の道府県で絶対得票率も議席も増えています。逆に議席を減らしている所…得票率は増えていても議席が減っている所は2県だけ、絶対得票率は下がっても

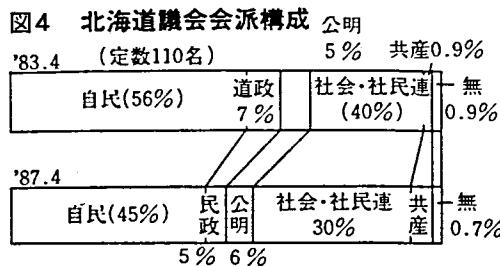


表2 党派別議員数・得票数

項 党	議員数		得票数	
自 民	49人	45%	1,005,139	41.3%
社 会	44	40	1,084,738	44.6
公 明	7	6	149,453	6.1
民 政	5	5	96,056	4.0
共 産	4	4	79,414	3.3
無所属	1	0.9	16,417	0.7

議席が増加したのは10県近くあって、東北全県、新潟、埼玉、千葉、神奈川、京都、奈良、兵庫、こういった所が目立ちます。そんな中で、先程紹介した北海道で社会党推薦の革新系無所属候補が13人一挙に増えたことは、注目に値します。

また、公明党は4人増加したものの絶対得票率ではほぼかわりません。民社党、共産党の両党は絶対得票率は下げたものの、議席は民社が4人増、共産党は33人増加し躍進したといえるでしょう。

指定都市について言いますと、市長選では川崎市で伊藤市長が安定した支持を得て保守系の新人候補を抑えて革新市政を守ったことが目につきます。

指定都市の議員選挙をみると、広島市以外ではすべて自民党は議席を減らし232人から204人と28人減らしています、ここでも社会党が議席を増やしています。例えば社会党は112人から126人と14人増加になっていますし、札幌市を除けば、京都、大阪、福岡で社会党推薦の革新系無所属を13人増やしています。横浜と大阪

の場合は、2人ずつ定数が減っているのに議席は増えているわけですから、相対的にはかなり増えたといつていいと思います。ただ、この中で札幌が議席を減らしている、これは候補者を

絞り過ぎたという問題と、中に高令の候補者がいてその人が落ちたということもあるのですが、これは全く予想されなかったことです。というのは、大都市で議席が増えることを全く予想し

表3

都道府県議会の新勢力分野

	定数	自民	社会	公明	民社	共産	社民連	諸派	無所属
北海道	110()	45(52)	31(20)	7(6)	1(0)	4(1)	0(0)	0(0)	22(22)
青森県	51(-1)	28(32)	8(7)	2(2)	1(1)	3(2)	0(0)	0(0)	9(8)
東北	52()	31(33)	9(6)	2(2)	1(1)	3(2)	0(0)	0(0)	9(11)
福島県	59()	35(44)	12(7)	3(3)	2(2)	2(1)	0(0)	0(0)	5(12)
宮城県	49()	26(26)	15(14)	3(3)	6(5)	0(0)	0(0)	0(0)	7(6)
山形県	49()	30(30)	10(9)	0(1)	1(1)	2(2)	0(0)	0(0)	3(2)
福島県	60(+2)	32(32)	11(9)	3(3)	4(3)	2(1)	0(0)	0(0)	8(10)
関東	55()	30(32)	8(7)	3(1)	0(1)	1(0)	0(0)	0(0)	13(13)
群馬県	57()	37(41)	8(6)	2(2)	0(0)	3(2)	0(0)	0(0)	7(8)
栃木県	94()	55(43)	10(6)	11(11)	0(1)	6(6)	0(0)	0(0)	12(23)
埼玉県	85(+6)	39(49)	14(9)	7(7)	2(2)	6(4)	0(0)	0(0)	17(8)
神奈川県	115()	31(37)	28(23)	14(13)	13(12)	2(3)	0(0)	5(5)	22(17)
中部	63(-2)	35(43)	15(10)	1(1)	1(1)	1(1)	0(0)	2(2)	8(7)
新潟県	47()	26(30)	9(10)	1(1)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	9(3)
富山県	47()	33(33)	4(4)	2(2)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	6(4)
石川県	40()	28(20)	2(2)	2(2)	2(2)	1(0)	0(0)	0(0)	6(8)
福井県	42()	21(10)	6(5)	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	12(17)
長野県	52(+1)	23(31)	17(17)	2(2)	2(2)	1(1)	1(1)	0(0)	16(10)
岐阜県	59(+1)	32(37)	5(5)	2(2)	2(2)	1(1)	1(1)	0(0)	8(2)
愛知県	78()	44(33)	12(11)	5(5)	3(3)	3(3)	0(0)	0(0)	11(3)
三重県	107(+1)	59(60)	12(10)	7(7)	17(11)	3(3)	0(0)	0(0)	7(6)
近畿	28(25)	7(7)	3(2)	1(1)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	13(19)
大阪府	48(+2)	21(27)	2(2)	1(1)	1(0)	3(1)	0(0)	10(10)	10(5)
京都府	61(-2)	24(26)	7(7)	7(7)	3(2)	12(14)	0(0)	3(2)	5(2)
滋賀県	113()	38(40)	17(15)	26(25)	11(10)	11(9)	0(0)	0(0)	2(5)
奈良県	91()	36(32)	15(18)	2(14)	9(8)	5(4)	0(0)	0(0)	14(20)
兵庫県	47(+2)	25(25)	10(7)	3(4)	5(4)	0(0)	0(0)	0(0)	4(7)
和歌山県	47()	25(27)	5(3)	3(3)	1(1)	4(4)	0(0)	0(0)	9(9)
中国	40()	26(28)	8(7)	2(2)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)	3(2)
岡山県	41()	27(25)	4(6)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	9(7)
広島県	58(+1)	34(36)	7(6)	5(5)	3(3)	2(3)	1(0)	0(0)	6(4)
山口県	69()	37(42)	10(9)	6(5)	3(2)	1(0)	0(0)	0(0)	12(11)
四国	54()	31(32)	8(5)	4(5)	2(2)	3(2)	0(0)	0(0)	6(8)
徳島県	42()	22(21)	7(6)	2(2)	0(0)	1(1)	0(0)	2(0)	8(12)
香川県	45()	29(30)	8(8)	3(3)	1(1)	3(2)	0(0)	0(0)	1(1)
高知県	53()	34(35)	5(5)	4(3)	1(1)	5(3)	0(0)	0(0)	7(8)
四国	42()	24(28)	6(5)	4(3)	0(1)	5(3)	0(0)	0(0)	3(2)
九州	90(+1)	31(36)	18(16)	9(8)	3(4)	5(2)	0(0)	11(11)	13(12)
福岡県	42()	29(29)	7(6)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	5(6)
佐賀県	53(-1)	23(29)	10(8)	3(3)	5(5)	1(1)	0(0)	0(0)	11(8)
熊本県	56()	36(40)	6(6)	3(3)	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)	10(6)
大分県	47(-1)	25(27)	9(8)	1(2)	2(2)	2(2)	0(0)	0(0)	8(7)
宮崎県	47()	23(26)	9(8)	3(3)	4(4)	2(2)	0(0)	0(0)	6(5)
鹿児島県	57()	33(30)	10(8)	3(3)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)	9(5)
44道府県 計	2670(+10)	1382(1487)	443(372)	186(182)	104(100)	118(85)	5(6)	35(41)	397(371)
非改進	66	54	5	3	0	1	0	0	3
改進	127	64(60)	11(10)	29(29)	21(2)	19(19)	0	0	2(2)
機	47	24	5	3	1	4	0	7	3
全国計	2910	1524	464	221	107	142	5	42	405

<注> ①カッコ内=定数は前回と比べた増減、党派別は前回当選者数を示す。東京は今回補欠選挙(被選挙数5)が行われたので、カッコ内は補選前の数(諸派別では並歩2人、沖縄社会大衆党7人を含む)。

表4

	計	札幌	横浜	川崎	名古屋	京都	大阪	神戸	福岡	女性
指定候補者数	204(232)	23(26)	25(30)	13(17)	21(23)	22(24)	28(37)	20(22)	34(31)	18(22)
自民	126(112)	19(20)	20(18)	13(12)	16(16)	10(6)	14(11)	14(13)	8(7)	12(9)
社民	128(122)	13(10)	19(17)	11(10)	14(14)	14(14)	22(21)	15(16)	8(8)	12(12)
公明	71(69)	1(0)	14(18)	6(6)	18(14)	7(7)	9(11)	12(11)	3(2)	1(0)
民社	80(74)	6(4)	9(6)	9(9)	5(6)	10(19)	15(11)	9(10)	5(4)	3(5)
共進	0(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)
諸派	19(13)	0(0)	5(0)	2(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	12(13)	5(0)
無所属	37(36)	8(10)	2(3)	10(10)	1(2)	0(1)	2(0)	2(0)	6(8)	6(2)
合計	605(665)	70(70)	94(96)	64(64)	75(75)	72(72)	90(92)	72(72)	64(64)	39(35)

無投票当選33人を含む。カッコ内は前回当選者数(新潟・沖縄6人は除く)と前回定数

ていなかったということです。

他党をみると、公明党は6人増の128人に、共産党は6人増の80人に、民社党は2人増で19人となりました。

(2) 社会党躍進の原因

このように大都市の所でみると、県会と同様に社会党の躍進が非常に目立つわけですが、その理由はやはり野党第一党の“のれん”にあるという説が最も有力のようです。それを別にすると、中曾根自民党政権の政治姿勢、そしてもうひとつは、土井たか子の登場によってつくられた社会党のイメージアップ…中身はともかくとしまして…これらの相乗効果と考えられるわけです。

ここでついでに、今年2月に多摩市で行った意識調査のデータで説明したいことがあります。それは、今回の選挙で社会党の得票が増えたのは、自民党の支持票が社会党に流れたからだという一般的の見方に対して、その可能性と、支持政党を持たない無党派の人が社会党を支持する可能性をみてみたいと思います。私は、自民党

の票が流れる量よりも、無党派の票が流れる量の方が多いと推定しています。

表5の資料に支持政党と拒否政党がありますが、このふたつをクロスさせてみると、大都市圏に共通していることですが、政党支持では一番多いのが「支持政党なし」です。政党別では自民党支持が21%近くあり、この自民党支持者で社会党を拒否政党として挙げるのは10%、公明党が18%、共産党が42%、民社党が…少ないのとここでは紹介してありませんが…。だから、自民党の票が動くとすれば、一番可能性があるのが社会党で次が公明党、共産党にはかなり距離があるのがわかります。

次に支持政党なしと答えた約45%の無党派の人についてみると、その拒否政党で一番低いのは社会党で2%、公明党が14%、民社党が2%、共産党が19%、そういう割合になっています。これでみると、社会党ないしは民社党が一番低いわけです。ただ民社党の候補者は相対的に数が少ないので、候補者がいない所は社会党に流れる可能性が大きいといえます。今度の場合、自民党の支持者もかなり棄権しているというデータもあるので、そういう点も考慮すると、

表5

表調 好きな政党 表頃 きらいな政党 封筒ケース 455

	合計	自由民主党	日本社会党	公明党	民社党	日本共産党	社会民主連合	別になし	わからない・無回答
合計	455 100%	84 18.5%	17 3.7%	71 15.6%	12 2.6%	106 23.3%	1 0.2%	145 31.9%	19 4.2%
自由民主党	94 20.7%	1 1.1%	10 10.6%	17 18.1%	1 1.1%	39 41.5%		25 26.6%	1 1.1%
日本社会党	65 14.3%	24 36.9%		9 13.8%	3 4.6%	13 20.0%		16 24.6%	
公明党	17 3.7%	2 11.8%	1 5.9%		1 5.9%	9 52.9%		4 23.5%	
民社党	11 2.4%	4 36.4%		4 36.4%		3 27.3%			
日本共産党	27 5.9%	15 55.6%		6 22.2%	3 11.1%			3 11.1%	
社会民主連合	3 0.7%		1 33.3%	2 66.7%					
田川新党	8 1.8%	3 37.5%		2 25.0%		2 25.0%		1 12.5%	
その他	9 2.0%	4 44.4%	1 11.1%	1 11.1%		1 11.1%		2 22.2%	
別になし	203 44.6%	29 14.3%	4 2.0%	29 14.3%	4 2.0%	38 18.7%	1 0.5%	89 43.8%	9 4.4%
わからない・無回答	18 4.0%	2 11.1%		1 5.6%		1 5.6%		5 27.8%	9 50.0%

1987.2・東京都多摩市民の意識調査から、横山研究室

量的には支持政党を持たない人がかなり社会党に投票しているのではないかということを申し上げておきます。

4. 後半戦、市町村長・市町村議員の選挙結果

(1) めだつ無投票当選

後半戦について指摘しなければならないのは、第一に、無風選挙区がたくさん出てきたということです。この原因は色々ありますが、そのひとつに社会党が候補者難に直面していまして、候補者を確保できないことがあります。後半の選挙は、首長選挙の場合、131市で行われていますが、うち26%34市が無投票で、史上最高といわれた54年の30%50市に次ぐ記録だといわれます。町村長ではさらに無投票の割合が高くなり、671町村のうち348町村52%が無投票となっています。神奈川、富山、鳥取、石川の4県で22町村長がすべて無投票当選しています。

県会の方も、全体で1145選挙区のうち131選

挙区、人数にすると183人が無投票です。これは前回58年の48選挙区80人よりも130人増えています。市議選でも6市159人が無投票であり、これも前回の2倍といわれています。また町村議員では13%がこれまた無投票です。こうした傾向は毎回強くなってきており、地域政治の非政党化・行政化が進行していることを示しているといえるでしょう。

(2) 候補者不足の社会党

これらのデータでみると、政党政治全体の衰弱化ということもあります。目立つのは何といっても社会党の候補者難という問題です。これは年々増加傾向にあり、今回の選挙で、大都市選挙や県会選挙では社会党が議席を増やしていますが、後半の選挙では社会党が最も議席を減らしています。政令指定都市以外の市議会選挙で、前回の当選者と比べ社会党が減らした議

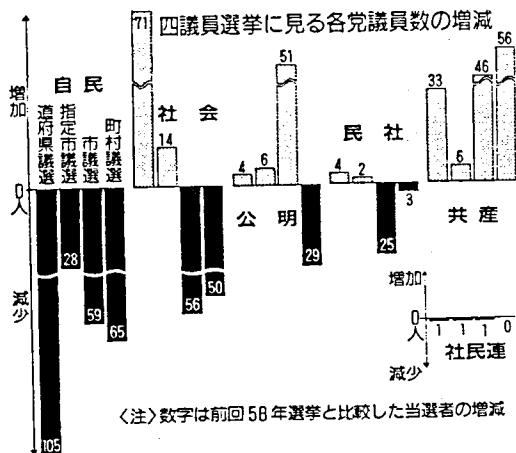
	自 民	198	選 27 日
	社 会	454	一 本
	公 明	580	六 社
	民 社	45	集 計
	共 産	828	(無 投 票)
	社 民 運	0	六 九 人
	諸 派	0	老 を 含 む
無 所 属	18,990		選 番
合 計	21,095		當 選

表6

市議當選者数 27日 本社集計	東京区議當選者数									
	27日 本社集計									
計	現	元	新	女性	前回 當選計					
自 民	1,880	1,230	39	111	9	1,439				
社 会	1,163	926	26	211	79	1,219				
公 明	1,200	908	1	291	49	1,149				
民 社	404	326	4	74	6	429				
共 産	972	735	52	185	231	926				
社 民 運	10	6	0	4	0	11				
諸 派	7	1	0	6	3	9				
無 所 属	6,477	4,608	195	1,674	127	6,872				
合 計	11,613	8,740	317	2,556	504	12,075				
定数	11,613	(諸派にはサラリーマン新党 1人を含む。前回當選者合 計は、新自ク21人を含む)								
合 計 1,051(1,073) 820 20 211 94										
定数 (諸派には進歩党 3 人を含む。計の右の) 1,051 (カッコ内は前回當選者、新自クは除く)										

図5

統一地方選 四つの議員選挙



席が56、町村議会で50です。自民党の場合は政令指定都市以外の市議会選挙で59議席減ですから、ほぼ同じ位です。自民党の町村議会の方が65減らしていますが、社会党は50です。

他党をみると、市会では公明党と共産党の躍進がみられます。公明党は51人増加し落選はわずか2名で合計1,200人となり、社会党の1,163人を抜いて、自民党の1,380人につぐ第2位となりました。しかし公明党は町村議会で29人減らしています。共産党は市会で46人増加し972人となり、逆に民社党は25人減らしてしまいました。

以上を見ますと、前半戦の県会・大都市の議員選挙と、後半戦の市町村議員戦とは全く逆の結果になっていることがわかります。これは後で議論の対象になるかと思います。

(3) 注目されるいくつかの市長選挙

後半戦で社会党を含む革新勢力が停滞したことから、売上税は後半戦には役に立たなかったと言われていますが、それは別として注目される選挙がいくつかあります。

その中でひとつ選ぶなら、北海道の苫小牧市长選挙でしょう。ここは前回社会党推薦で立候補した市長候補が今回も出まして、現職を破って当選した所です。これは知事選との関係があって、社会党は表面立って推薦はしていなかったのですが、実際は社会党と地区労とくに自治労が中心となって選挙をやったところです。ここで紹介したいのは、前回保守の市長が当選してから4年間、自治労が中心となって市政をかなり詳しく絶えず住民に情報提供をしていたこと、これが今回現職を破るに当たって大きな効果を発揮したと考えられています。その間、自治労は何回か意識調査を行っていますが、それらが今回の市長選挙政策づくりと選挙運動に効果を挙げたといえます。また、同市会議員選挙でも社会党は8人から10人に増加して第1党になりました。

その他に、同じ北海道の三笠で社会党推薦の現職候補が当選し、赤平市では革新無所属の新人候補が市長に当選しているのが目立ち、北海道の革新市政の復活の兆しがみえたような気もします。

また、市長選挙の大勢は自民・公明・民社を軸にした保守・中道共闘が占め、宇都宮・武蔵野・新宿など52市区で共闘し苫小牧と赤平で敗れた以外は全勝しています。かつての革新市長を誕生させた社共共闘のパターンは11市区で組まれましたが、勝ったのは三鷹市だけという結果です。

表7

**市長選
翌日開票
確定得票**

【北海道】

◇小樽市	當 66518 新谷 昌明①無新
	20444 北野 義紀 共新
	3641 吉田 雄一 無新
◇室蘭市	當 46251 岩田 弘志③無現
	14690 鶯山 丈司 無新
	12728 塚本 正毅 無新
◇北見市	當 39713 久島 正①無新
	△ 14326 三浦 征男 無新
◇苫小牧市	當 51225 烏越 忠行①無新
	△ 35327 板谷 実 無現

【埼玉】

◇浦和市	當 90743 中川 健吉①無現
	△ 59209 白井 法 無新
◇行田市	當 28311 中川 直木⑧無現
	△ 14833 山田 計司 無新
◇秩父市	當 20386 内田 全一①無新
	△ 18143 水野 瑞吾 無新
◇北本市	當 18597 新井 肇①無新
	△ 10179 大島 茂 無新

【東京】

◇武藏野市	當 31684 土屋 正忠②無現
	△ 21142 石崎 和彦 無新
◇三鷹市	當 35105 坂本 貞雄④無現
	△ 26174 鈴木 利和 無新
◇小金井市	當 14468 大久保慎七①無新
	△ 12909 田中二三男 無新
	4964 小柴 作一 無新
◇小平市	當 34686 潤沼 永真②無現
	△ 22606 永松 重男 無新
◇東村山市	當 30369 市川 一男②無現
	11513 印南 広志 無新
	4712 服部 清 無新
◇国立市	當 14072 谷 清③無現
	△ 11926 寺西 崇雄 無新

◇東大和市	當 18346 尾崎清太郎⑤無現
	△ 12843 尾又 正則 無新
◇清瀬市	當 19372 渋谷 邦蔵⑧無現
	△ 9241 井上 勝夫 無新
◇多摩市	當 28208 白井 千秋③無現
	△ 15835 高野 裕 無新
◇稻城市	當 9652 山田 元①無新
	△ 6936 川島 二郎 無新
	5482 須恵 淳 無新
	2142 富永ヨシ子 諸新

【神奈川】

◇平塚市	當 60862 石川 京一③無現
	△ 48749 伊藤 昌治 無新
◇茅ヶ崎市	當 47458 根本 廉明②無現
	△ 37105 加藤 勇 無新
◇大和市	當 38684 井上 孝俊①無新
	△ 36699 山口 順弘 無新

【山梨】

◇甲府市	當 65915 原 忠三②無現
	△ 44586 河口 親賀 無元

【愛知】

◇豊橋市	當 102278 高橋アキラ②無現
	△ 67940 藤田 益見 無新

【大阪】

◇吹田市	當 82648 横原 一夫⑤無現
	26228 安部 友康 無新
◇八尾市	當 81666 山脇 悅司④無現
	21333 北川 博 無新
◇寝屋川市	當 49257 西川 忠博②無現
	△ 44698 小松 良夫 無新
◇藤井寺市	當 21572 堀端 宏③無現
	△ 7749 中村 寿太 無新

【岡山】

◇岡山市	當 172253 松本 一②無現
	56951 藤原 貢 無新
	29278 河重 寛子 共新
◇津市	當 34533 永礼 達造②無現
	△ 16446 杉山 義和 無新

【広島】

◇尾道市	當 41875 博田 東平③無現
	△ 15481 横山 茂 共新

**東京区長選
確定得票**

【東京】

◇中央区	當 22170 矢田 美英①無新
	△ 10957 六角 精祐 無新
	3773 阿田川喜三 無新

◇新宿区

当 71622 山本 克忠④無現
△ 33013 立山 学 無新
◇文京区

当 53030 遠藤 正則④無現
△ 20416 松田 貞男 無新

◇台東区

当 61466 内山 栄一④無現
16963 藤原 進 無新
◇江東区

当 70174 小松崎軍次④無現
△ 38559 佐野 進 無新
22363 米沢 正和 無新
12338 柿本 伸彦 無新

◇品川区

当 72922 高橋 久二①無新
△ 43163 原田 泰雄 無新
◇目黒区

当 68161 塚本 優雄④無現
17688 四郎丸 功 無新
◇世田谷区

当 203053 大場 啓二④無現
48540 後藤 雄一 諸新
◇渋谷区

当 53159 天野 房三④無現
△ 18141 石川 清 無新
◇杉並区

当 119664 松田 良吉②無現
△ 47217 伊藤 吉紀 無新
◇豊島区

当 64802 加藤 一敏①無新
△ 29016 橋本 克己 無新
◇北区

当 112272 北本 正雄②無現
△ 42945 八巻 直人 無新
◇荒川区

当 58930 町田 健彦③無現
△ 25713 林 久美子 無新
◇板橋区

当 115805 栗原 敬三③無現
△ 67438 佐々木順二 無新
◇練馬区

当 124966 岩波 三郎①無新
△ 100158 本尾 良 無新
◇江戸川区

当 167390 中里 嘉一④無現
△ 28748 畑上 敏雄 無新

5. めざましい女性の進出

最後に、女性の政治的進出についてふれたいと思います。ひとつは練馬の区長選、そして奈良県の橿原市長選、愛知県の津島市長選、この3つで女性が登場して闘ったわけですけれども、残念ながら3つとも敗れてしまいました。これは首長選ともなると男の壁は厚いというのが一般的な評価です。

東京の練馬区長選の場合は美濃部型の社共統一候補であり、それに市民団体が乗って選挙をつくったということなのです。社共共闘とはいっても、社会党と共産党を比べると、社会党的力はかなり弱く、共産党が前面に出た選挙になってしまった。そのことが逆に市民団体を結集する上でマイナスになった、一言でいえばそういうことだと思います。都知事選の方は、社会党と共産党は対立して候補者を出しましたし、ここが社共共闘の大変ねじれた形になったわけです。その“ねじれ”が政党支持なしの市民運動派から抵抗感をうんだのでしょうか。

練馬区長選では、新聞などが他の地域よりも多く報道しているにもかかわらず、投票率が非常に低い。この投票率の低さというのは、今回引退した区長が前回の選挙で泡沫候補といわれて選挙らしい選挙にならなかった、その時の投票率よりもさらに下がったということをみると、新聞報道の割には、住民は選挙に期待をしなかったということになるのだろうと思いまます。

神奈川県議選挙でも、唯一鎌倉市で社会党と市民団体が共同で統一候補を擁立したのですが、やはり失敗しています。出遅れたこともあります。

ですが、やはり政党と市民団体あるいは市民運動との関係という問題を考えるうえで、貴重な教訓を残したと思います。これは後で現地からコメントを頂こうと思います。女性議員の数は毎年増えています。1975年の選挙では、全国の県会議員の女性候補者は126人、うち29人当選、市議会は367人のうち282人当選しています。それが今回は、県議会が180人立候補して52人当選しています。市議会は606人立候補して504人当選しています。特に、市議会での当選率が高いのに気がつきます。

このように女性が登場してきた原因を探ると、神奈川は女性議員が増えた点で目立った県なのですが、県会では一人増えただけです。ところが、横浜、川崎市では女性議員は10人から16人になっています。その他の市議町議も17人から36人に増えています。非改選議員を含めると、現在神奈川県には、合計59人の女性議員がいることになります。その59人の中で政党以外の団体、政党を名乗っていない団体、あるいは無所属が24人います。これは注目に値する数字であると思います。

特に目立つのは藤沢市の場合で、定数44人のうち18.5%、8人が女性で、立候補者全員が当選しています。その内訳は、社会党が3、共産党が1、無所属が4人です。神奈川県の中で女性議員がない所は、中井町、山北町のふたつだけになったわけです。

その中で特に神奈川ネットワーク運動、通称NETの進出が大変目立ちました。いわゆる生活派が政治に登場してきたということです。これは、あくまで“生活派”というようなくぐられる人々であります、女なら誰でもいいというわけでは決してありません。つまり、地域で何がしかの運動を行っている人たち、そういう人たちが登場してきたということで、あえて

生活派と呼んでいるわけです。そのひとつのモデルとして神奈川ネットワーク運動をみると、生活の質を変える運動を地域でひろげ、その必然的結果として積極的に選挙に関与していく、あるいは議会に仲間を送りだすということになったわけです。そこで言っていることは、もうひとつの生活、もうひとつの地域、そこから出て、更にもうひとつの政治、オルタナティブな政治を求める動きとして性格づけられるということです。

これはNETに限らず、無所属で登場してくる女性たちには多かれ少なかれこういう傾向がみられます。それは、男社会あるいは男政治に対する女の側からの挑戦だと受け取っていいと思いますが、これは先程の北海道で新しい政治

家像が求められていることと根が同じものであり、これまでの戦後政治体制というものに変化を求めている現れだといえると思います。

それらが今後どのように進展していくかはわかりませんが、少なくともそれが政党、特に社会党に対して影響を与える筈です。現に与えていたわけですが、逆に社会党の側から言うと、社会や経済の変化に伴う政治の変化の中で政党政治の変化が求められている、そのような問題提起に対してどう対応していくかということが、今後の社会党の抱える大きな問題であると考えます。

以上で、雑駁ではありますが、問題提起といったします。

表8 神奈川の議会別当選者内訳及び女性の当選者

1987.4.12及び26日

議会名	定数	党派別当選者 () 内は女性							女性の内訳		
		自民	社会	公明	民社	共産	諸派	無所属	立候補者数	当選者数	新人
神奈川県	115	31	28(4)	14(1)	13(1)	2(1)	3	24	24	7	1
横浜市	94	25	20(2)	19	14	9(4)	5(3)	2	16	9	5
川崎市	64	13	13(2)	11	6	9(3)	2(2)	10	12	7	5
小計	273	69(0)	61(8)	44(1)	33(1)	20(8)	12(5)	34(0)	52	23	11
横須賀市	48	12	6①	8	4	3	0	15(2)	2	2	0
平塚市	36	1	6①	5	4	2	1(1)	17(2)	4	3	3
藤沢市	44	6	7(3)①	6	4	4(1)	2(1)	15(3)	8	8	3
小田原市	32	0	4	4	3	2	0	19(1)	1	1	0
茅ヶ崎市	30	2	4	4(1)	1	4(2)	0	15(1)	4	4	1
相模原市	46	0	4	8(1)	3	3(2)	1(1)	27	6	4	2
三浦市	24	5	0	2	1	4	0	12(1)	1	1	1
大和市	32	2	4(1)	5	0	4(2)	1(1)	16	4	4	3
伊勢原市	28	0	1	3	2	2(1)	0	20(1)	2	2	1
南足柄市	26	1	2	2(1)	0	2	0	19	1	1	1
綾瀬市	26	0	3(1)	3	1	2	0	17	1	1	0
小計	372	29(0)	41(5)	50(3)	23(0)	32(8)	5(4)	192(11)	34	31	15
葉山町	20	0	1	1	0	1	1(1)	16(2)	4	3	2
中井町	16	0	0	0	0	1	0	15	0		
山北町	22	0	2	0	0	1	0	19	0		
開成町	18	0	0	1	0	1	0	16(1)	1	1	1
城山町	18	0	2	2(1)	0	2	0	12	1	1	
小計	94	0(0)	5(0)	4(1)	0(0)	6(0)	1(1)	78(3)	6	5	3
合計	739	98(0)	107(13)③	98(5)	56(1)	58(16)	18(10)	304(16)	92	59	29

○印内は社会党推薦女性無所属議員で、当選後同一合派を組んだもの。

諸派は、進歩党、NET、MPD。無所属でもNET出身者は諸派に入れた。

質 疑 応 答

質 問1. 私どもも選挙の総括をしたところ、今後に残る課題としていくつかの大きな問題が出てきました。ひとつは、神奈川県の都市化現象ということで、これにどう対応していくかが今後の大きな課題といえます。特にこの都市化現象の中で、例えば社会党は都市に弱い政党と言われてきた経過があり、今回売上税の追い風の中でこれだけ来たということは一体何なのかを深く考えて今後の県政・市政に反映させなければならぬと思います。社会党という既成政党に所属しながら活性化をはかるという大きな動きもあるうかと思います。NETのような革新的な考え方をした人たちと私たち労働運動との連携を今きちんと確立しないとまずいことになると思います。そのこととの歩調の合わせ方を今後考えねばならないと思いますがどうでしょうか。

横山：社会党中央本部では土井委員長のもとに、女性、障害者、生協などを集めて市民運動委員会を設置したい、それによって党と市民運動とのつながりを強めたいという選挙総括がだされています。しかし、社会党の内部にそのような機構や人の配置がきちんとできていて、具体的に政策化し運動化していくことができなければ、つくっても意味がない。そしてそれを中央本部につくるのではなくて、県本部・総支部につくらないと話は前進しない。

神奈川で言えば球を投げられたのは社会党の方であって、市民運動ではない。投げられた方はどう受け止めるかを真剣に考えねばならないと思います。

質 問2. 今回の選挙で社会党の長期低落傾向に歯止めがかかったかということ、これについてどうお考えでしょうか。

横山：歯止めについては、北海道にも端的に表れているようにバランス感覚が働いたということです。自民党がもっと失政をやるとなると相対的に浮かび上がらざるを得ないということなのです。この振り返しは必ず来ると思った方が良いでしょう。少なくとも土井たか子委員長によって社会党のイメージがアップしたことは間違いない。しかしそれはあくまでもマスコミが作ったイメージアップに過ぎず、社会党本体は全然変わっていない。とすれば、自民党の選挙が変わった形で出来たら、攻められる可能性が強いのではないかでしょうか。

社会党が受けて立てるような力量を蓄積できるかどうかが決め手となる。そういう意味で簡単に歯止めがかかとは言えない、つまり今回の選挙は例外であるということです。

質 問3. 新しい政治家像というのが興味深いが、飛鳥田氏が出てきた時に個性というのがあると言わっていましたが、それと今の新しい政治家像の違いはあるのか、又その可能性について聞きたいのがひとつ。

もうひとつは県政と生活がつながっているのか、一方ではつながっているが行政地域の違いをどう克服するのか、そのあたりをひとつ。

横山：戦後の革新首長の時代というのは、首長を擁立した政治の構造が戦後の第一世代だったと思います。第一世代というのは理想先行型、イデオロギー先行型なのです。その世代は戦後の政治は革新政党だというところで機能してきたわけですが、高度成長の中で社会構造も考え方も変わってきました。

ところが今出てきている革新というのは、それと対比させれば典型的に思想先行型ではない。

デモクラシーにしてもかなり肉体化しているデモクラシーである。30代40代、とくに女性はそうで、男性も含めて戦後の民主主義教育を受けた世代であり、その世代が今政治のレベルに登場してきている。この世代は思想先行型ではないから、思想的にはあまり整理が出来ていない。しかし日常生活を通じてあらゆることを経験的あるいは肉体的にかぎわけていき、試していく、そういうことが出来る世代なのです。

従って、これから革新自治体の可能性というのは、社会党にしても思想先行型の第一世代が引っ張っているわけですが、この中身が変わらない限り、肉体化されたデモクラットあるいはプロフェッショナルな人々を魅きつけることができないだろうと思います。これからの革新がどうなるにせよ、その世代を無視してはもはや革新は成立しないだろうと言うのが私の考えです。

第2点目、県政と革新自治体の制度上の違いが、選挙などの時にどういう対応の仕方となつて出てくるかということですが、県政に対する距離が非常に遠いということです。特に、横浜・川崎は政令市なのでその傾向が強く、県政などいらないという気持ちがかなり強い。政党的な場合は国政でも県政でも全部運動させてしまうので問題はないのですが、一般市民はそう簡単には運動しない。とりわけ今回初めて登場し

てきたNETなどの場合は自分達が考え運動していた地域こそが基礎であり、そこでの政治の対象は市政だと考える傾向が強い。そこから先、県政へというのは経験なり運動なり様々な問題にぶつかないと到達できないのだろうと思います。そういう意味ではまだまだ距離はかなりあるように思います。

これは相対的な問題で、福岡や北海道のように政治的緊張が高まる時には、制度的関係は別として、その緊張はもろに市民に反映するわけです。市民の方もいやでも県政や道政に目を向けるを得ない。神奈川ではそれが単に制度上の問題ではなく、県の政治姿勢あるいは4年間の県政の中での県民との関係が手薄になっている気がします。ですから、「遠い」というのは市民の側からみて遠いということではあるが、県の方からも市民に向かって遠くしているという問題があると思います。

《この稿は、1987年6月13日に横浜市技能文化センターで開かれた当自治研センター主催の「地域政治構造研究会」における横山教授の問題提起と、それに対する質疑の概要をまとめたものです。

文責はすべて編集者にあります。引用した図表は、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、神奈川新聞、及び月刊社会党からのものと、当センター独自の作製によるものです。》

県内の'87統一自治体選挙の 結果を分析する

(社)神奈川県地方自治研究センター事務局

1. 選挙の投票率をめぐって

(1) 前半戦の投票率

まず第一ラウンド（前半）の選挙の投票率についてみると、全県平均で57.3%であり、前回の58.48%をわずかではあるが下回り、史上第2位の低さとなった。知事・県議の他に市会の選挙が行われた横浜で55.3%とわずかに前回を上回ったものの、市長・市議選挙と4重選挙となった川崎では60.63%と前回をわずかではあるが下回った。史上最低の投票率だったのは前々回1979年4月の53.2%であり、この時は実に6選挙区で県会が無投票であったことを思い起こすと、全選挙区での投票が行われた今回は相対的には低いと言わざるを得ない。特に衆院選挙区でみると、無風といわれた選挙区の多かった5区（相模川以西）で前回を5.34%も下回ったことが全体に影響したものと思われる。

この投票率について、投票終了時にマスコミ関係者に対して「今回投票率が下がった原因は、まず売上税をめぐる公約違反について自民党支

持者の内部から意識的な棄権があったのではないか。それに、自民党に代わる野党にもっと頑張ってもらいたいという意識票が出るので、革新側に有利なのではないか。」と筆者が答えた記憶がある。結果的にはこの指摘は期待をこめて言ったものであったものの、正鵠を得たような気がする。

(2) 後半戦の投票率

第2ラウンドの後半戦も投票率は前回を大きく下回り、史上最低の投票率を記録した地域も見られた。雨模様の悪天候と連休時期と重なったこともあるが、売上税「廃案」などで争点ボケの感はあった。

平塚、茅ヶ崎、大和では市長選挙が同時に行われ、有力対立候補の争いであったわりには前回よりも低い投票率だった。平塚では前回の市長選挙が無投票であったため、市議選単独の投票率で見ると前回が低かったためそれより上回ったが、市長選では県内で唯一70%台にのせたものの前々回より7%も下がっている。

その他の市議選でも前回より7%以上さがった横須賀、藤沢をはじめ、5~3%いずれも下がっている。そのため藤沢、綾瀬は史上最低の投票率となり、低調さを浮き彫りするかたちとな

◆ 神奈川県内の投票率（単位%、カッコ内は前回との差）

知事選 57.30 (-1.17)
 川崎市長選 60.63 (-0.26)
 県議選 57.30 (-1.18)
 横浜市議選 55.31 (+0.05)
 川崎市議選 60.63 (-0.28)

【市長選】

平塚 70.16 (-7.34)
 茅ヶ崎 65.72 (-4.57)
 大和 63.70 (-2.01)
 ※平塚は前々回比

【市議選】

横須賀 62.08 (-7.16)
 平塚 70.17 (-2.35)
 藤沢 57.07 (-7.11)
 小田原 70.45 (-5.73)
 茅ヶ崎 65.72 (-4.57)
 相模原 62.19 (-5.80)
 三浦 77.25 (-3.74)
 大和 63.70 (-2.01)
 伊勢原 71.77 (-4.55)
 綾瀬 72.08 (-5.11)

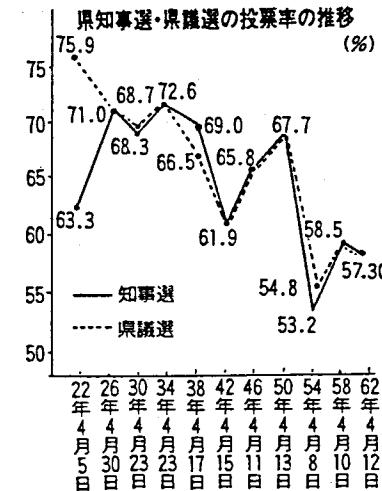
【町議選】

葉山 71.98 (-5.10)
 中井 92.22 (-1.63)
 山北 92.31 (-2.01)
 開成 89.05 (-3.17)
 城山 79.07 (-7.92)
 湯河原 55.06 (-32.99)

った。町議選も同様であった。

この中で全市とも女性の投票率が男性を3~4%上回り、女性の地域への関心の高さを裏付けている。このことは今回の県内選挙で女性議員が多く誕生し、後半戦だけみても41人が立候補し36人が当選するという好成績をあげたことの裏付けともなる。

最も問題とされるのは、住民に一番身近な選挙である自治体選挙で投票が低いことであり、身近なところの政治に関心が寄せられていないという現象である。「地方自治にイデオロギーはないらしい」と言われて10年たったが、その間住民の関心は離れる一方であった。議員定数の削減が川崎を除く全自治体で行われており、こ



れに対する反対の声はほとんど出ない。議会が住民の意思を反映する場になっていないことのあらわれとも思われる。こうした現状を直視し、地域における政治の役割を政党が積極的に果たさなければならないと考える。

2. 知事・県議選挙

(1) 長洲知事4選をはたした知事選挙

神奈川の知事選挙をめぐっては、前回・前々回のほぼ無風選挙・オール与党選挙とちがって、さざ波のたった選挙といえる。4期目をめざす長洲知事に対して共産党と労働党からそれぞれ対立候補が出た。長洲陣営は社・公・民を中心とした確認団体が前回同様つくられ、それと自民党などの支持を得て、得票数は238万票と前回を10万票減らしたものの、3回連続して全国最多得票という結果であった。

今回の知事選挙をめぐっては、まず86年9月に民社党幹部が「長洲知事を支持しない」という発

言がとび出し、波乱が起きた。民社党としては単独で候補者を擁立することができないことがから、自・公・民路線での候補者選びが水面下ではじめられ、元大蔵省官僚の名前もうかんでいた。しかし、自民・公明とも最終的にはこの誘いに乗らず、対立候補擁立は実現しなかった。また、自民党内では若手の議員を中心にして長洲知事を「支持できない」という県議団の意見書が出されたものの、県連の機関では独自候補の擁立を断念するという決定が出された。

一方、市民団体や革新陣営内でも動きは複雑であった。社会党が与党中央の与党として11月の定期大会で長洲知事を支持することを決めたものの、知事の支持団体や共産党などは独自の動きを示した。知事の出身母体である学者文化人の会でも会員の中で意見のくい違いが目立つようになつた。特に池子の米軍住宅をめぐるアセス審査などの過程を通して「アクセルもブレーキも踏まない」というスタンスに疑問を示す向きも多かった。また、態度を保留しながら状況を見守っていた共産党は、2月の最終局面で長洲支持をやめ、対立候補を立てことになった。

こうした波乱のあおりをうけ、知事選挙の母体となる社・公・民・労働団体を中心とした確認団体のスタートが2月県会終了時点まで延びてしまったのである。選挙の結果は前述のとおりであったが、共産党の岡村候補が党の基礎票を10万票以上伸ばして42万票余を獲得、労働党が前回より12万票少ないものの24万票を獲得した。票数からいえば長洲知事が圧勝ではあるものの、有権者総数に対する絶対得票率が43%であったことから一部では「事実上の敗北」などといわれる要素を含んでいることも確かである。行政主導というイメージや旧来の枠を越えて政治的な指導性が求められており、これが今後の課題となろう。

神奈川県知事選の 市區町村別得票数 (選管確定)

	山本正治 (労・新)	長洲一二 (無・現)	岡村共栄 (共・新)
横浜市	100,368	885,188	180,106
鶴見区	8,043	67,882	16,368
神奈川区	7,088	59,762	12,320
西中区	3,071	28,013	4,482
南港区	3,644	33,469	5,667
保土ヶ谷区	6,623	57,318	11,437
旭磯金港緑戸栄景瀬谷崎	6,136	57,884	11,963
子沢北塚	5,949	54,524	11,168
川崎市	7,249	70,370	14,176
川崎区	5,082	49,498	9,330
川崎区	6,189	51,892	10,528
川崎区	9,428	77,586	14,839
川崎区	12,128	100,142	20,269
川崎区	7,097	64,991	14,622
川崎区	3,999	37,285	7,197
川崎区	4,269	38,712	8,063
川崎区	4,373	35,860	7,677
川崎区	41,162	350,392	67,083
川崎区	7,670	66,814	15,466
川崎区	5,534	48,950	9,025
川崎区	7,452	58,698	10,834
川崎区	5,977	46,888	8,203
川崎区	5,931	47,808	8,481
川崎区	5,309	46,037	9,065
横須賀市	3,289	35,197	6,009
横須賀市	16,958	144,330	19,806
横須賀市	6,969	73,582	18,150
横須賀市	4,766	49,492	8,780
横須賀市	10,681	100,576	16,904
横須賀市	5,303	63,683	11,909
横須賀市	5,894	60,539	9,874
横須賀市	2,584	17,498	4,524
横須賀市	13,355	141,167	23,990
三浦市	2,036	19,016	2,423
三浦市	3,138	33,527	6,593
三浦市	4,658	51,239	8,553
三浦市	5,778	55,909	8,553
三浦市	2,132	26,338	4,844
三浦市	2,226	28,613	4,277
三浦市	2,681	28,773	4,175
三浦市	1,473	15,982	2,593
三浦市	1,997	19,224	2,675
三浦市	1,057	9,192	1,543
三浦市	1,766	14,367	1,831
中郡	1,569	19,832	4,481
中郡	836	9,943	2,163
中郡	733	9,889	2,318
足柄上郡	1,623	21,847	3,384
足柄上郡	272	3,002	593
足柄上郡	313	4,913	751
足柄上郡	350	4,264	703
足柄上郡	425	5,819	771
足柄上郡	263	3,849	566
足柄下郡	1,207	15,305	2,571
足柄下郡	361	4,381	795
足柄下郡	243	2,993	537
足柄下郡	603	7,931	1,239
足柄下郡	826	10,617	1,561
足柄下郡	771	9,652	1,462
足柄下郡	55	965	99
足柄下郡	2,421	25,739	2,948
足柄下郡	675	7,608	987
足柄下郡	987	9,485	1,171
足柄下郡	343	4,112	401
足柄下郡	416	4,534	389
市部計	234,159	2,165,068	405,805
郡部計	10,469	116,899	18,319
県計	244,628	2,281,967	424,124

(2) 県会議員選挙

①社会躍進、自民後退の選挙結果

県議会選挙の動向については、長洲知事を支える各党の議会構成がどうなるのかは今後の県政の方向づけを占う上で注目された。一時はいくつかの無投票選挙区が出るのも予想されたが、

【神奈川県の選挙区別当選者数】

県議	自	社	公	民	共	社	進	労	諸	無	定
	民	会	明	社	産	運	歩	働	派	所	数
横浜市	15	14	7	7	1	0	0	0	0	3	47
鶴見区	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	4
神奈川区	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
西中南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
港南区	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
保土ヶ谷区	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
旭区	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	4
金子区	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
北区	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
緑区	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	6
戸塚区	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
荒川区	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
豊島区	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
練馬区	4	5	2	1	0	0	0	0	0	4	16
新宿区	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3
中野区	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
高田馬場区	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
大泉学園区	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
青梅市	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1
日野市	2	2	1	1	0	0	1	0	0	0	7
あきる野市	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
八王子市	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1
相模原市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
横浜市・三浦郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
模範町	3	1	1	1	1	0	0	0	0	1	7
浦和市	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
厚木市	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	2
大和市	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1
伊勢原市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
海老名市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
相模原市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
厚木市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
大和市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
足柄上郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
足柄下郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
甲斐郡	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
津久井郡	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	31	28	14	13	2	0	2	0	3	22	115
改選前の勢力	40	21	13	12	3	0	0	0	0	23	112 (欠員3)

共産党が知事候補を擁立することになり、県会空白区に対立候補を立てたことにより全選挙区で行われた。

定数115に対して立候補者188人が争った神奈川の県議選の結果も、全国の傾向と同じように、社会党の躍進、自民党の敗北という結果であった。社会党は前回より5人増の28議席を獲得し、1975年の長洲知事誕生の年の29議席にせまる成果であった。前回の選挙で候補者を出しながら今回見送った地域では当然得票率の減少はあったものの、立候補した全地域で得票数を増加している。しかも28人中19人がトップ当選という好成績ぶりであった。

これに対して自民党は前回より6人減、改選前議席より10人減の31人に減少している。小田原で最長老を含め2人の現職が落選し空白区となつたのをはじめ、西区、高津区、麻生区、茅ヶ崎、座間などで現職を相次ぎ失っている。得票数では前回を8000票ほど減らしている。

公明党は14人全員当選し1人増加となり、堅実な闘いぶりを示した。民社党も1人増加の13人であるが、予想では17人に達するのではないかと言われていただけに、予想外の伸び悩みと言えよう。これも同盟内部に円高不況の直撃を受けた企業が多く、雇用不安がさけばれており戦力の低下がみられたことによるものと思われる。また、特に日産の労使関係の紛争にも一部の原因があるようで、日産を母体として今まで高位当選を続けてきた神奈川区、平塚などで現職を落選させていることなどに表れている。また、ほぼ全選挙区に候補者をたてた共産党は県知事選の得票増にもかかわらず、議員は1議席減の2人にとどまった。

また、今回の特徴のひとつとして無所属議員の増加とその再編があげられる。新自由クラブが解党し、その11人の行方がまず注目され、保

守党ながら自民党と一線を画していた無所属会派・県政会 8人の議員の増減も注目されていた。長洲与党としての多数派形成をめざしていた労働 4 団体は、進歩党の 2 人とは選挙区で対立するため推薦はしなかったが、社公民 3 党の立候補者のいない 7 選挙区で県政会系候補者 7 人を初めて推薦決定した。それは、三浦、伊勢原、座間、南足柄、高座郡、中郡、津久井郡であり、伊勢原と津久井郡ではわずかの差で当選できなかつたが、他は勝利した。この結果は、長洲与党の安定多数の形成に大きく寄与したものといえる。

②選挙後の会派の形成

選挙の結果は31人に転落した自民党は、5月の臨時県会にむけて無所属議員の入党工作を積極的に展開した。その結果、新しく10人名の参加をえて41人名とし、改選前の議席を確保することに成功した。一方自民党に入らなかつた保守系無所属議員は、進歩党の 2 人を加え16人で県政会を結成、自・社につぐ第 3 位の会派となつた。そして長洲知事支持の意向を明らかにした。このことにより、長洲与党は確認団体の社 (28) 公 (14) 民 (13) に県政会 (16) さらに革新系無所属 1 を加え115議席の過半数を大きく上回る67議席を確保するに至つたのである。

県議会会派の構成(87.5.1)

	今回(%)現在)	前回(昭58)
自 民	41	41
社 会	28	23
公 明	14	13
民 社	13	12
県 政	16	8
自由県民の会	0	2
新 政 会	0	1
旧新自ク・進歩党	0	11
無 所 属 ク	1	1
共 産	2	3
	115	115

5月の臨時県会では人事承認案件の審議が行われ、最大の関心をよんだのが副知事人事である。2期 8 年勤めた原副知事が引退し、知事の政策ブレーンとして12年間懐刀の役割をしてきた久保孝雄氏が副知事に指名され、自・共両党の反対はあったものの議会の多数で承認されたのである。

このように長洲与党は多数になったとはいえ、必ずしも安定した 4 期目とはいえない。確認団体をめぐる動きに表れたように公明・民社の協力関係も、今回の県議選をめぐって前回ほど活発には行われなかつたようである。むしろ参議院選地方区の候補者をめぐり微妙な問題もあるようで、県会内部でのそれぞれの党・会派の主導争いをめぐって流動的な要素もあり、県会のカジとりが 4 期目の長洲県政の課題ともいえる。

3. 政令市長・市議選挙

(1) 伊藤 5 選をはたした川崎市長選挙

4 期16年のキャリアを持つ伊藤川崎市長が 5 期目をめざすのに対して、現職県議から保守系統一候補として長井英慈氏が対決し、県内首長選での最大の焦点となった。1975年に対立候補を出したあと 2 回対抗馬を見送ってきた自民党は、旧新自ク系の長井氏に昨年12月上旬に正式出馬要請をし、候補者 1 本化をはかつてきした。長井氏は49歳という若さを売り物に、他都市との比較数値などを示しながら都市基盤整備の遅れを指摘し、現職市長の足もとをおびやかした。

2 回続けて無風選挙を経たため伊藤陣営も 5

区川 別崎 得市 票長 数選 (選管 確定)	伊藤三郎	永井英慈
	(無・現)	(無・新)
	川崎区	61,368 30,008
	幸 区	43,466 20,961
	中原区	50,449 28,049
	高津区	40,284 21,774
	宮前区	41,039 22,306
	多摩区	35,457 26,097
	麻生区	27,382 17,841
	合 計	299,445 167,036

選にむけてのスタートは必ずしも円滑ではなかったが、社共を中心とした確認団体づくりとともに、社公民のブリッジ共闘、地区労働者共闘組織づくりがすすめられ、圧倒的な知名度と人柄の良さから来る期待感が強まった。また県内首長でももっとも早く売上税反対を表明し、商工団体、保守層までへのくい込みに成功した。

選挙結果は、全区で長井氏を圧倒した伊藤市長が13万票の大差で勝利した。公害都市追放を訴え、青空を取り戻すための施策を次々と実現させた伊藤市長はダイナミックでロマンあふれる川崎づくりにむけて、5期目は総仕上げとしてスタートを切った。その市政にも都市基盤整備を中心としながら、南北に長い川崎の南北間格差解消の問題や、まちづくりの課題が背負われており、新しい府内体制の確立などとともに「初心にかえった」展開が期待される。

(2) 社・公躍進、自民後退の横浜市議選

今回の市議選は前回の定数96に対して2名減の94と定数是正して初めての選挙であり、立候補者135名で争われた。選挙結果は自民党が史上最低の議席数25となり、前回当選者より5人、改選前より6人減となり、全国的退潮と期を一致している内容であった。ほぼ前回どおりという予想に反し、定数の減員区である鶴見、中、瀬谷で現職が、さらに分区の行われた戸塚、泉、

無風選挙区とみられていた旭、金沢でも現職を合計で8人を失っているのが大きく響いている。これに対し社会、公明は着実に議席を増やした。社会党は新人4人を当選させ、2人増で16年ぶりに20議席を越え、得票数も20人のうちほぼ半数の9人がトップ当選という好成績であった。また公明党も19人全員が当選し前回より3名増加させた。定数減の中での勝利であるだけに注目される。

この3党と互角で争うものと予想された民社党は不振で、前回を3人減らし14人にとどまった。県議選での伸び悩みと同様、日産の労使関係や雇用不安などで労組の力が発揮できなかつたことが原因とみられる。また、共産党はこれらの間げきをぬって、6人から9人に3議席増加し、前々回の議席10に迫る勢いをみせた。

第1ラウンドの選挙のひとつの焦点が女性の進出だといわれ、特に革新系無所属で神奈川ネットワーク運動（NET）の動きが注目された。県会でこそ当選をはたせなかつたが、横浜市会では昨年の補欠選挙で敗れた神奈川区で雪辱を果たし、緑、旭区で新人が当選し合計3人となり新たな政治勢力として登場した。主婦の感覚、

横浜市議		自	社	公	民	共	社	進	労	諸	無	定
		民	会	明	社	産	民	歩	労	派	所	数
鶴	見 川 区	2	1	2	2	1	0	0	0	0	0	8
神	奈 川 区	2	1	1	1	1	0	0	0	0	1	7
西	中 南 港 区	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2
中	南 港 区	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	6
南	土 南 ケ 谷 区	2	1	1	1	1	0	0	0	0	0	6
港	土 南 ケ 谷 区	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0	7
保	旭 機 子 沢 区	1	2	1	1	1	0	0	0	0	1	5
旭	機 子 沢 区	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	5
機	金 港 緑 戸 塚 区	2	2	2	1	1	0	0	0	0	1	9
金	北 区	5	2	2	0	1	0	0	0	0	0	11
港	北 区	1	2	1	2	1	0	0	0	0	0	7
綠	戸 塚 区	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
戸	泉 谷 区	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	4
泉	瀬 谷 区	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
合 計		25	20	19	14	9	0	0	0	5	2	94
改選前の勢力		31	18	16	17	6	0	0	0	2	6	96

選管確定 選前勢力	県議				横浜市議				川崎市議				丸数字は女性の当選者。 旧は改選			
	計	現	元	新	旧	計	現	元	新	旧	計	現	元	新	旧	
自 民	31	27	0	4	40	25	20	1	4	31	13	11	0	2	17	
社 会	28①	20③	1	7①	21③	20②	16②	0	4	18②	13②	8	1	4②	12①	
公 明	14①	8①	2	4	13①	19	15	1	3	16	11	10	0	1	10	
民 社	13①	9①	0	4	12①	14	11	0	3	17②	6	5	0	1	5	
共 産	2①	2①	0	0	3①	9①	5②	1	3②	6②	9③	5①	0	4②	8②	
社民連	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
進 歩	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
労 働	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
諸 派	3	0	0	3	0	5③	2	0	3③	2	2②	1①	0	1①	1①	
無所属	22	16	1	5	23	2	2	0	0	6	10	9	0	1	10	
合計	115①	84③	4	27①	112⑤	94③	71④	3	20③	96⑥	64⑦	49②	1	14⑤	63④	(欠員1)

川神奈
県奈

手作りの政治を目標とするNETの今後の動きが注目される。

横浜市会では選挙後の6月定例会をむかえたが、それまでに自民党が無所属で当選した保守系2人の入党工作をすすめ27人の会派となり、第1党のポストともいるべき議長の座についた。しかし、その議長任期は従来の2年から1年に短縮されるものとみられており、多党化し勢力均衡している中でバランスをとりながらの議会運営は、3年後の細郷市長の改選期をにらみながら今後とも波乱含みであるといえよう。

(3) 自民減を各党で分けた川崎市会選挙

川崎市会選は南北の行政区間での定数是正を行ったものの、総定数64のまま変わらず、これに対し83人が立候補し争われた。ここでも自民党の退潮が目立ち、前回の17人から4人減の13人となり、全員当選をはたした社会党の13人と並ぶ結果となった。自民党は宮前区で市連幹事長が落選し、高津区でも現職を失った。市長選で独自候補を擁立したことが議席の増加に結び付かず、結果的には裏目に出たようだ。社会党

川崎市議	自 民	公 明	共 産	社 連	進 歩	労 働	諸 派	無 所 属	定 数	
									川 崎 区	華 中 高 宮 多 真 生
川 崎 区	1	2	2	1	2	0	0	0	1	11
原 津 区	1	2	1	1	1	0	0	0	2	8
高 宮 区	4	2	2	1	2	0	0	0	0	11
多 真 区	2	2	2	0	2	0	0	0	0	9
真 生 区	2	2	2	1	1	0	0	0	1	10
合 計	13	13	11	6	9	0	0	2	10	64
改選前の勢力	17	12	10	5	8	0	0	0	1	10
										63

は多摩を除き各区2人と候補者をしほったこともあって4人の新人を含め13人全員当選となり、得票も3区でトップ当選、他も上位当選し、得票数も増加させた。

また、公明党も社会党と同様11人全員当選をはたし、1人増加した。共産党も新人4人を含めて健闘し1人増加し9人となり、民社党も1人増の6人となり、それぞれ着実に伸ばした。さらに前回の選挙では宮前区から県内で初当選して注目されていたNETは、今回さらに高津、多摩で新人を立て「手作り政治」をめざしたが、高津区で次点となり、1人増加の2人にとどまった。こうした各党が自民党の減少をひとつ分けて増加した結果になる。

この他、保守系無所属が新旧の交代はあったものの当選者は10人と変わらなかった。自民党

はこの無所属議員の入党工作をすすめたことから、議会開催時までに14人となり、辛うじて単独第1党となったものの、議長・副議長とともに失う結果となった。無所属の9人は同志会5人、市民クラブ4人とそれぞれ独自の会派をつくっている。伊藤市長にとっては、社(13)公(11)共(9)民(6)の与党を合わせて過半数を上回る39議席となり、比較的安定した議会運営となりそうである。

4. 市長・市会、町長・町議選挙

統一自治体選挙の後半戦は、4月19日に市長・市議選が、21日に町長・町議選が告示され、同26日に投票が行われた。県内では4市長11市議、1町長5町議と1町議補欠選挙が行われた。以下その状況と選挙後の議会構成などをみるとする。

(1) 市長選挙の結果から

①無投票当選の南足柄市長選

平塚、茅ヶ崎、大和、南足柄の4市長選挙が行われたが、まず南足柄で安藤正夫現市長が自・社・公・民・共の5党からの推薦・支持をうけ、対立候補の出馬する余地を与えず告示日当日に無投票当選を決めた。全方位的な行政手腕と豊かな財政基盤に支えられた堅実な市政運営が支持されたといえる。

②平塚市長は現職が3選

前回の無投票から一転して保守同志の厳しい一騎打ちとなり、現職の石川京一市長に対し伊藤昌治前市会議長が対決する争いであった。社

会・民社の推薦と地元の河野洋平代議士の全面支援をうけた石川市長が、地区労・同盟などの他、約200近い団体からの支持をとりつけ、2期8年の実績を訴え、伊藤候補に1万2千余票の差をつけ、手堅く3期目当選を果たした。亀井善之代議士の支援と地元自民党支部の推薦を受けた伊藤氏は、国會議員の「代理戦争」というイメージをぬぐいきれず、現職の壁を破ることができなかった。

3選された石川市長にとっては、沈滞した地域活性化が大きな課題である。かつて商都平塚と名をはせたが、周辺都市の急激な成長ぶりを横目にみながら地盤沈下を余儀なくされていたことから、地場商工業の振興と新大型店誘致との共存など課題が山積みしている。総合公園第2期事業や西部丘陵開発（ハイテクパーク）などの事業実施に手腕の發揮を求められている。

③根本氏再選の茅ヶ崎市長選挙

2期目をめざす根本康明現市長に対して加藤勇元県議が対決するという前回と同じ顔ぶれの争いとなった。社会党・公明党の推薦と旧新自由クラブ等の支援を受けた根本市長は、素人市長といわれながらも1期4年の実績を訴えてその持ち前の誠実さが買われ、加藤候補に1万票余の差をつけて再選された。民社党と同盟そして地元自民党的支援をうけた加藤氏は、茅ヶ崎駅北口の元国鉄用地転売問題で根本氏を批判し、前回の雪辱を期したが及ばなかった。

公正・公平な市政をめざした根本市長にとって、国鉄用地転売という思わぬ難題を突き付けられたものの、このことは選挙の大きな争点にならなかったことが幸いした。今後2期目の課題は、北口再開発や大踏切の立体化、新湘南国道の延伸などの街づくり事業の実現が求められている。また公共下水道などの都市基盤の整備

市長選の確定得票

平 塚

当60,862 石川 京一 無現
○48,769 伊藤 昌治 無新
【投票総数】 111,543
【有効投票】 109,631
【投票率】 70.16%
【無効投票】 1,912

茅ヶ崎

当47,458 根本 康明 無現
○37,105 加藤 勇 無新
【投票総数】 86,450
【有効投票】 84,563
【投票率】 65.72%
【無効投票】 1,887

大 和

当38,684 井上 孝俊 無新
○36,699 山口 順弘 無新
【投票総数】 77,780
【有効投票】 75,383
【投票率】 63.70%
【無効投票】 2,397

南足柄

無投票当選 安藤 正夫 無現

の他に、福祉・教育などの課題も待ち受けており、本格的なまちづくりの手腕が試されることになろう。

④井上氏が逆転勝利した大和市長選挙

遠藤現市長の引退をめぐり「後継」の指名を昨年6月に受けた山口順弘前市議会議長がいち早く選挙運動を展開したのに対し、3ヶ月遅れて出馬声明をした井上孝俊前市議との間で新人同士の一騎打ちとなった。市会最大会派である清和会を結集し、自民党の推薦をとりつけた山口氏が数にものをいわせた組織戦で有利な前半

戦を進めた。これに対し出遅れた井上氏は「草の根選挙」を徹底して展開し、終盤で社会党の推薦を獲得し、公明・民社などの中道票にも支持を拡げ、一部に「楽勝ムード」がみられた山口陣営のスキを突いて劣勢をはねかえし、わずか2千票差で逆転勝利をした。

井上新市長は保守系で市議3期の農業出身であるが、社会党と政策協定を行い、厚木基地撤去に対して「署名運動など幅広く市民運動的手法をとり入れるべきだ」など積極的な姿勢を示し、市民の共感を得た。また旧新自ク系のリベラルさを持ち、人間らしい生活のできる「生き生き大和」にしたいと訴えた。

基地対策とともに、遅れているといわれる市南部の都市基盤整備が目前にせまっている課題であり、新市長の手腕が問われている。

(2) 市議選の結果から

①無投票当選の南足柄市議選

市議選では、横須賀、藤沢、小田原、茅ヶ崎、相模原、三浦、大和、伊勢原、南足柄、綾瀬の11市が告示された。このうち南足柄では定数26に対して現職元22、新人4の合計26と定数どおりの立候補数にとどまり、告示日当日に決まった。一般市議選での無投票当選は昭和46年以降県内で例のこととなり、同時に告示された市長が無投票当選したこととあわせ異例のことといえよう。

この他の市議選挙の特徴をみることにする。

②保守2分で多党化の横須賀市議選

定数48人に対して53人が立候補して争われた

南足柄市議選当選者数(無投票)						
定数	自民	公明	国民党	無所属	現職	新人
26	1	2	20	—	21	40

が、結果としては党派別の議席数に基本的な変化はなかった。自民党は議員団長が落選したものの現有議席から1人増え12人となり、新旧交代のうごきがみられる。社会党は前回の次点者が雪辱をはたしたが、現職1人が落選し現有の6人のままであった。公明党は1人増の8人立てて全員当選をはたした。民社党は逆に現有議席から1人減の5人を立て背水の陣をひいたが現職1人が落ち4人となり、自動車・造船などの業界不況の影響をもろにうけた形である。

選挙後の議会の会派構成は、自民12人に対して、無所属議員は旧新自由クラブ系・田川代議士派の流れをくむ議員が大同団結したことにより新政会をつくり、これが12人となり拮抗した。社会党は無所属革新1人を加え社会・市民連合として7人、民社党は同盟出身の無所属を加え民社・市民クラブとして5人、共産党は3人、無所属1人となった。6月議会では議長、副議長は自民党がとった。横山市政をめぐっては、保守系2派と公明・民社が与党であり、与野党勢力のバランスに大きな変化はみられない。

横須賀市議選当選者					
	計	現	元	新	(丸の数字は、その当選者の数)
自民	12	9	0	3	
社会	6	5	0	1	
公明	8	7	0	1	
民社	4	4	0	0	
共産	3	3	0	0	
諸派	0	0	0	0	
無所属	15②	13②	1	1	
計	48②	41②	1	6	

③会派再編がおきた平塚市議選

前回の定数40から今回は36に減員して初めての選挙であり、40人が立候補し小数激戦の選挙戦であった。党派別の当選者は大勢としては改選前にはほぼ同じ構成だが、社会党は6人で変わらず、公明党は1増の5人、民社党は1減の4人、共産党は2減の2人となり、民社・共産の

不振が目につく。

今回の選挙では、無所属の25歳の無名の新人が7,000票を獲得しトップ当選したことや、社会党推薦の女性候補と神奈川生協を背景にして出た女性候補、さらにNETの女性候補が高位で当選するなどの新しい動きがみられた。これらの新しいうごきの影響を共産党の候補者が直接うけて減少したことになる。

同時に行われた市長選挙の結果は石川市長が3選されたわけであるが、議会会派に大きな変化がみられた。石川市長の与党としては、無所属の河野代議士系議員が8人で市政クラブをつくり、社会党と同推薦1を加えた社会革新の7人、民社4人の合計19人が支持母体となる。対立した伊藤候補派は無所属の亀井代議士系の7人で新風クラブをつくりた。公明党の5人と共産党の2人はそれぞれの会派をつくった。また、NETと市民クラブの女性の2人とトップ当選の無所属議員は、特別の会派をつくらず独立しており、現在のところ石川市長についての支持の態度は明らかでない。市長の与党で多数を占めた市政クラブから議長、社会党から副議長が選出され、新しい議会運営がはじめられている。

平塚市議選当選者					
	計	現	元	新	(丸の数字は、その当選者の数)
自民	1	1	0	0	
社会	6	5	0	1	
公明	5	4	0	1	
民社	4	3	0	1	
共産	2	2	0	0	
諸派	1①	0	0	1①	
無所属	17②	12	0	5②	
計	36③	27	0	9③	

④女性進出の藤沢市議選

来年88年2月に市長選挙をひかえ、その支持をめぐる注目を集めた議員選挙は、定数44に対して48人が立候補し、少数激戦であった。党派別の当選者数をみると社会党7人、民社党4人、

市議選当選者数

川神奈

	定 数	自 民	社 公	民	共	諸 派	無 所 属	現	元	新	女 性	
横須賀	48	12(11)	6(6)	8(7)	4(6)	3(3)	0(0)	15(15)	41	1	6	2
平塚	36	1(0)	6(6)	5(4)	4(5)	2(4)	1(0)	17(20)	27	0	9	3
藤沢	44	6(2)	7(7)	6(5)	4(4)	4(4)	1(0)	16(21)	36	1	7	8
小田原	32	0(0)	4(4)	4(4)	3(3)	2(0)	0(0)	19(22)	24	2	6	1
茅ヶ崎	30	2(2)	4(4)	4(4)	1(1)	4(4)	0(0)	15(13)	19	1	10	4
相模原	46	0(0)	4(3)	8(7)	3(5)	3(2)	1(0)	27(29)	38	2	6	4
三浦	24	5(4)	0(0)	2(2)	1(1)	4(4)	0(0)	12(13)	21	1	2	1
大和	32	2(2)	4(5)	5(5)	0(0)	4(3)	0(0)	17(19)	21	0	11	4
伊勢原	28	0(0)	1(1)	3(2)	2(1)	2(3)	0(0)	20(20)	21	0	7	2
綾瀬	26	0(0)	3(3)	3(3)	1(1)	2(2)	0(0)	17(17)	23	0	3	1
合計	346	28(21)	39(39)	48(43)	23(27)	30(29)	3(0)	175(189)	271	8	67	30

【選管確定】カツコ内は改選前の勢力

共産党4人と変わらないが、公明党が1増の6人となり、自民党を正式に名乗った当選者は前回の3人から6人に増えたが、実質的な変化とはいえない。

この選挙の最大の特徴は、女性が8人立候補し、全員当選したことである。内訳はまず社会党の現職2人と新人が1人、社会推薦の新人1人と社会党系が4人、無所属の市政市民会議の現職2人とNETの新人1人、そして共産党の現職1人の8人である。投票率では男性よりも4.75%も高い女性のパワーにささえられ、県内でも横浜の9人につぐ数となり、女性の議席占有率ではもちろんトップとなった。

さて、選挙結果の会派構成にも一定の変化がみられた。葉山市長の与党としては社会党が推薦1人を含み8人となり、NETを含めた革新無所属議員による市政市民会議が4人、共産党4人、旧新自ク系無所属の市民党2人の合計18人である。これに対して反葉山陣営とみられるのは自民と保守系無所属議員からなる自由同志会が16人であり、民社4人の20人である。このキャスティングボードを握るのが公明党の6人であり、同党の動きが注目された。

5月臨時議会では、議長ポストをめぐって公

藤沢市議当選者

	計	現	元	新	
自民会	6	6	0	0	ちの丸数字は、
公明社	7③	6②	0	1①	その女性當選者數う
民共社	6	3	0	3	
諸無所	4	4	0	0	
派無所屬	4①	4①	0	0	
無所屬	1①	0	0	1①	
計	16③	13②	1	2①	
	44⑧	36⑤	1	7③	

明党は自由同志会につき、自由同志会から議長が選ばれると、公明党は副議長のポストを獲得した。また、6月議会では、国家秘密法反対決議案の採決にあたっては革新系につき、同決議を成立させた。このように来年の市長選挙をめぐる議会での与野党をめぐっての攻防は増え厳しくなるものと予想される。

⑤定数削減の小田原市議選

地方行革のながれに沿って議員定数を4人削減し、32議席とした初の選挙であるが、36人が立ち争った。選挙結果は社会党4人、公明党4人、民社党3人で現状をそれぞれ維持し、共産が議席ゼロから2人となった。減員は結果的に保守系無所属と新人議員にしわよせされた形になる。この中で特徴としてあげられるのは、市役所OBの4人が新人で出馬して全員当選し、

定数減の選挙の中で注目された。

選挙後の議会の会派構成は、かなり複雑なものになった。社会・公明・民社は当然それぞれの会派を構成したが、保守系無所属議員は政和会4人、市民クラブ4人、新政会4人、清新会3人、緑政会4人と5派にわかれ、さらにどの会派にも属さない2人と分立したことである。前回事実上無風選挙となった山橋市長に対して、保守系各会派から市政執行をめぐってゆさぶりを生じることも考えられ、波乱含みの議会運営となりそうである。

小田原市議選当選者				
	計	現	元	新
自 民	0	0	0	0
社 会	4	4	0	0
公 明	4	4	0	0
民 社	3	2	0	1
共 産	2	0	1	1
諸 派	0	0	0	0
無 所 属	19①	14①	1	4
計	32①	24①	2	6

⑥市長支持派が流動した茅ヶ崎市議選

市長選挙と同時に行われた市議選挙は定数30に対し37人が立候補し争われたが、根本市長か加藤候補かをめぐって大きくゆれた。

選挙の結果だけみると改選前の勢力をそれぞれ維持し、自民党2人、社会党4人、公明党4人、共産党4人、民社党1人と党派別の公認候補はそれぞれ全員当選をはたした。注目されるのはここでも女性議員の進出であり、公明、共産そして無所属革新の現職議員の他に共産党からの新人が4人全員が当選した。この他に25歳の新人が好成績で当選するなどがみられ、一方で社会党をはじめ革新政党内での新旧交代が起きはじめてきており注目される。

選挙後の議会の会派構成は、市長選挙が激戦であったことの反映で複雑な動きを示した。市長選挙で根本市長を推薦したのは旧新自ク系4

人と社会・公明であり、根本市長再選後、保守系議員の中で大きな再編の動きがあった。旧新自ク系4人の他に保守系無所属の4人が一緒になり、さらに民社、自民から1人が加わり10人で創茅会をつくった。創茅会には加藤候補を推薦した議員も含まれているが、最大会派となつたことから議長のポストを獲得している。副議長は公明党から選ばれた。

一方、社会党公認の4人と従来から同一会派をくんでいる現職の電機労連出身者と民間労組出身の新人2人が加わり社会党は7人の大所帯となった。公明4人、共産4人は独自の会派をつくった。また保守系無所属2人と自民の1人は新政同友会をつくり、反根本の構えをくずさない。さらに革新系無所属の女性議員と最年少当選の新人無所属議員はそれぞれ無会派で独自の立場をとることになった。

以上の新しい会派をみると、根本市長支持派は創茅会、社会、公明で21人と多数になった。しかし、創茅会には加藤支持派も一部入っていることから、波乱含みの議会運営といえそうである。

茅ヶ崎市議選当選者				
	計	現	元	新
自 民	2	2	0	0
社 会	4	3	0	1
公 明	4①	3①	0	1
民 社	1	1	0	0
共 産	4②	3①	0	1①
諸 派	0	0	0	0
無 所 属	15①	7①	1	7
計	30①	19③	1	10①

⑦変化が少ない相模原市議選

指定都市を除いては1番大きな人口をかかえる相模原市であるが、人口の増加は毎年続いているものの議員の定数は増加させず、2番目の都市横須賀より2名少ない46が定数である。これに56名立候補し、立候補者数では一番多かつ

た。

選挙の結果は、前回大きく議席を減らした社会党が1人増して4人に、公明党も1人増して8人に、共産党も1人増して3人となった。これに対して民社党は不況や雇用不安から組織力が低下したため候補者を4人に絞ったが、1人落選となり2人減の3人となった。自民党公認の立候補者はなく、保守系無所属で立候補した。

この選挙で注目されるのは、25才の女性新人が平和と民主運動（M P D）から初議席を獲得したことであり、県内では横浜につぐ議席である。また共産党の新人とともに女性2人の新人と、現職（公・共）の女性議員2人とあわせ4人の女性議員が誕生している。

選挙後の議会の会派構成はいくつかの変化がみられる。社会党は日電出身の現職とあわせて社会クラブを5人でつくり、民社党は当選した3人の他に三菱系現職2人をあわせて5人で民社クラブをつくった。この他、前期の途中まで2会派に分かれていた保守系無所属は今回の選挙後1本化し、市政クラブを作り24人の最大会派となり、議長・副議長を独占した。公明党8人、共産党3人は独立会派であり、M P Dは無所属で単独のままである。

この結果、鎌盛市長支持は市政クラブと公明・民社であり、相変わらず議会の多数を占めることになる。2年後に改選を迎える同市長は安定した与党に支えられ、次期もめざす勢いである。しかし人口50万を越える大都市となった相模原市だが、下水道をはじめ都市整備基盤の遅れがみられ、これに対する対応がもとめられている。

相模原市議選当選者

	計	現	元	新	ちの数字
自民会	4	3	1	1	の女は
公明社	8①	7①	—	1	性當選者
公民社	3	3	—	1①	その数
共産諸派	3②	1①	1	1①	の数
無所属	1①	—	—	1①	う
計	27	24	—	3	
	46④	38②	2	6②	

⑧激戦のあと三浦市議選

定数24人に対し28人が立候補し選挙が行われたが、自民の1増のほか党派別には改選前の勢力に大きな変化はなかった。しかし、保守系から初の女性議員の誕生もみられ、同数得票者が2組みも出るなど激戦のあとがうかがわれた。

選挙後の議会の会派はいくつかの変化がみられた。2年前の市長選で久野隆作市長を支持した旧新自ク系の新生クラブは改選前より1人減らし7人となった。また、前回の市長対立候補となった神田氏が議席を回復したことを含めて自民党は議席を増し、無所属を入れて7人の自民クラブをつくり、さらに民社党1人と無所属2人で清風クラブをつくり、無所属会派は3つとなった。共産党4人、公明党2人はそれぞれの会派をもったが、革新系無所属で県評推薦の議員は単独の行動をとっている。

この結果、市長支持と反市長議員は同数であり、2年後の三浦市長選挙も議会運営をめぐって野党的立場の自民の動き次第で波乱含みといえそうである。

三浦市議選当選者

	計	現	元	新	ちの数字
自民会	5	4	1	0	の女は
公明社	0	0	0	0	性當選者
公民社	2	2	0	0	その数
共産諸派	1	1	0	0	う
無所属	4	4	0	0	
	0	0	0	0	
計	12	10	0	2①	
	24①	21	1	2①	

⑨市長選からみの激戦、大和市議選

ここも定数を2人削減し32人の議席を37人で争う選挙となり、市長選挙と同時に行われた。選挙結果は、候補を絞った社会党が1減の4人、公明党が5人と現状維持し、共産党が1増の4人となった。定数の削減は保守系無所属にしわよせされた形になる。

この中の特徴は、NETの女性の3位当選と、社会党新人女性が引退した前議員の議席を継承したこと、公明党、共産党と新人が共に当選したことなど、女性候補者の4人全員当選があったことである。さらに26歳の代議士私設秘書が初当選するなど新しい動きも注目される。

議会の新しい会派の構成は、市長選挙の影響もあり、流動的な要素を含んでいる。落選した山口氏をかついだ清和会は15人と最大の会派であることは変わらない。これに対して井上市長支持は社会の4人、旧新自ク系元新政クラブと民社系の3人とあわせても7人と少数である。公明は5人だが、そのうち1人は山口系ともいわれており、共産の4人とNETの1人が態度を明らかにしていない。清和会の中にも元新政クラブの議員もあり、井上市長の政治手腕がどう發揮されるかによって、これから会派構成に影響を及ぼすことは明らかであり、手腕を見守りたい。

⑩変化が少ない伊勢原市議選

定数28人に対して32人が立候補し争われたが、

政党党派別の構成に大きな変化はみられなかった。公明党が1増で3人、民社党も1増の2人、共産党は4人をめざしたが1減で2人となり、社会党は1人と変わらなかった。また、県内で初めての車イス議員が誕生したことと、共産党の現職と保守系無所属の新人の2人の女性議員が当選し注目された。

選挙後の会派の構成は、20人と保守系無所属が多数となったが、自民党系の議員が14人で大政会を、また旧新自ク系の議員6人で新政会をつくった。来年9月に改選を迎える永井市長だが、県議選での保守内部での対立もあり、市会の今後の動向が注目される。

⑪現有議席維持の綾瀬市議選

定数26人に対して31人が立候補して争われたが、党派別の構成では改選前の議席をすべて確保し、変化がみられなかった。社会党・公明党がそれぞれ3人、共産党2人、民社党1人である。

選挙後の会派の構成は、14名の自民党系無所属議員が新政会をつくり最大会派となり、鈴木市長支持の与党的立場である。保守系無所属のうち反鈴木派の2人は新綾会をつくり独自の立場を示している。また、民社党1人と自動車出身議員で市民クラブをつくった。社会、公明、共産はそれぞれの会派をつくれた。鈴木市長は来年夏に改選期を迎えるが、この選挙をめぐって新たな対立の動きもあり、今後の議会運営が

	大和市議選当選者				伊勢原市議選当選者				綾瀬市議選当選者				
	計	現	元	新	計	現	元	新	計	現	元	新	
（丸の数字は、当選者の数）	自民 2	1	0	1	自民 0	0	0	0	自民 0	0	0	0	
社会 4①	3	0	1①	1	社会 1	1	0	0	社会 3①	3①	0	0	
公明 5①	3	0	2①	1	公明 3	2	0	1	公明 3	3	0	0	
民社 0	0	0	0	0	民社 2	1	0	1	民社 1	1	0	0	
共産 4①	3	0	1①	1	共産 2①	2①	0	0	共産 2	2	0	0	
諸派 0	0	0	0	0	諸派 0	0	0	0	諸派 0	0	0	0	
無所属 17①	11	0	6①	5	無所属 20①	15	0	5①	無所属 17	14	0	3	
計	32①	21	0	11④	計	28②	21①	0	7①	計	26①	23①	0
													3

注目される。

(3) 町長、町議選の結果から

①無投票当選を決めた湯河原町長

4月21日告示された町長選挙は、県内では湯河原町長だけであったが、その湯河原町長は対立候補がなく無投票当選が決まった。現職で2期目に跳戻した小沢忠一町長に対して対抗馬がなく、前回助役から立候補した当時と同様に2回目の無投票当選となった。

②新旧交替のみられた町議選

三浦郡葉山町、足柄上郡中井町、山北町、開成町および津久井郡城山町の5町で町議選が行われ、それぞれ定数より1~3名だけ多い立候補となりいずれも少数激戦となった。

葉山町議選は定数20に対して23人が立候補した。選挙結果は現職2人が落選し、代わって女性の進出が目立った。補欠選挙で当選されたNETの現職議員がトップ当選し、緑派の新人女性2人も当選した。党派としては社会、公明の現職が1人ずつ議席を守り、共産が前回失った

議席を回復した。無所属当選者のうち9人が五月会を、4人が蒼和会をつくり、社会党とNET、緑派の議員3人が新緑社会の会をつくった。他は各々1人ずつである。

城山町議選は、定数18に対し19人で争ったが社会党が1人増え2人になり、公明党、共産党はそれぞれ2議席を維持した。革新中道が初めて1/3を占めた。保守系無所属は12人と過半数を占め、選挙後の会派として町政クラブをつくった。この保守系の中には県議選で対立した保守同志の両派が入っており、波乱含みといえる。

足柄上郡の中井町では定数16に対し18人で争ったが共産党の1人を除き全員が保守系無所属であった。

山北町では定数22に対し23人と1人だけ落選という選挙だったが、わずか1票差で次点と当選が決まるという激戦ぶりだった。社会党が2議席を維持し、共産党が1人当選し、他は保守系無所属となった。

開成町では定数18に対し、これまた1人だけ多い19人で争ったが、現職は9人全員当選し、公明党が初議席を得て共産党は議席1を守った。また、保守系無所属で10年ぶりに女性議員が当選し注目された。

城山町議選当選者						
	計	現	元	新	△	（丸の数字は、当選者の数）
自民	1	1	1	1	1	（丸の数字は、当選者の数）
社会	2	1	1	1	1	（丸の数字は、当選者の数）
公明	2①	2①	—	—	—	（丸の数字は、当選者の数）
公民	—	—	—	—	—	（丸の数字は、当選者の数）
共産	2	2	—	—	—	（丸の数字は、当選者の数）
諸派	—	—	—	—	—	（丸の数字は、当選者の数）
無所属	12	6	2	4	—	（丸の数字は、当選者の数）
計	18①	11①	2	5	—	（丸の数字は、当選者の数）

中井町議選当選者				山北町議選当選者			
	計	現	元	新	△	（丸の数字は、当選者の数）	△
自民	0	0	0	0	0	0	0
社会	0	0	0	0	2	2	0
公明	0	0	0	0	0	0	0
公民	0	0	0	0	0	0	0
共産	0	0	0	0	1	0	1
諸派	1	1	0	0	0	0	0
無所属	15	9	1	5	19	13	1
計	16	10	1	5	22	15	1

葉山町議選当選者						
	計	現	元	新	△	（丸の数字は、当選者の数）
自民	0	0	0	0	0	（丸の数字は、当選者の数）
社会	1	1	0	0	0	（丸の数字は、当選者の数）
公明	1	1	0	0	0	（丸の数字は、当選者の数）
公民	0	0	0	0	0	（丸の数字は、当選者の数）
共産	1	0	1	0	0	（丸の数字は、当選者の数）
諸派	0	0	0	0	0	（丸の数字は、当選者の数）
無所属	17③	13①	0	4②	—	（丸の数字は、当選者の数）
計	20③	15①	1	4②	—	（丸の数字は、当選者の数）

開成町議選当選者				湯河原町会新分野				
	計	現	元	新	計	現	元	新
自民	0	0	0	0	0	0	0	0
社会	0	0	0	0	2	1	0	1
公明	1	0	0	1	2	2	0	0
公民	0	0	0	0	0	0	0	0
共産	1	1	0	0	1	1	0	0
諸派	0	0	0	0	0	0	0	0
無所属	16①	8	0	8①	17	15	0	2
計	18①	9	0	9①	22	19	0	3

87統一自治体選挙結果 資料編

神奈川・読売・朝日の各新聞
自治研センター資料より

都道府県議会の新勢力分野

	定数	自民	社会	公明	民社	共産	社民連	諸派
北海道	110()	45(52)	31(29)	7(6)	1(0)	4(1)	0(0)	0(0)
(青森)	51(-1)	28(32)	8(7)	2(2)	1(1)	3(2)	0(0)	0(0)
(岩手)	52()	31(33)	9(6)	1(1)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)
(宮城)	59()	35(34)	12(14)	3(3)	0(1)	2(1)	0(0)	0(0)
(秋田)	49()	25(26)	15(14)	1(1)	0(1)	1(1)	0(0)	0(0)
(山形)	49()	30(30)	10(8)	0(0)	1(1)	2(1)	0(0)	0(0)
(福島)	60(+2)	32(32)	11(9)	3(3)	4(3)	2(1)	3(4)	0(0)
(栃木)	55()	30(32)	8(7)	3(1)	0(1)	1(0)	0(0)	0(0)
(群馬)	57()	37(41)	8(6)	2(2)	0(0)	3(6)	0(0)	0(0)
(埼玉)	94()	55(43)	10(8)	11(11)	0(1)	6(4)	0(0)	0(0)
(千葉)	85(+6)	39(49)	14(8)	7(7)	2(2)	2(3)	0(0)	5(5)
(東京)	115()	31(37)	28(23)	14(13)	13(12)	2(3)	0(0)	0(0)
(新潟)	63(-2)	35(43)	15(10)	1(1)	1(1)	1(1)	0(0)	2(2)
(富山)	47()	26(30)	9(10)	1(1)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)
(石川)	47()	33(36)	4(4)	2(1)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)
(福井)	40()	28(26)	2(3)	1(1)	2(2)	0(0)	0(0)	0(0)
(長野)	42()	21(18)	6(5)	2(2)	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)
(岐阜)	62(+1)	25(31)	17(17)	2(2)	0(1)	2(0)	0(0)	0(0)
(愛知)	51(+1)	32(37)	5(5)	2(2)	2(2)	1(1)	1(1)	0(0)
(三重)	78()	44(53)	12(13)	5(5)	3(3)	3(3)	0(1)	0(0)
(滋賀)	107(+1)	59(68)	14(10)	7(7)	17(11)	3(3)	0(0)	0(0)
(京都)	54()	28(25)	7(7)	3(2)	1(1)	2(0)	0(0)	0(0)
(奈良)	48(+2)	21(21)	2(2)	1(1)	1(0)	3(1)	0(0)	10(10)
(和歌)	61(-2)	24(26)	7(5)	1(1)	3(2)	12(14)	0(0)	3(3)
(大阪)	113()	38(40)	17(15)	26(25)	11(10)	11(9)	0(0)	2(2)
(兵庫)	91()	36(32)	15(13)	12(14)	9(9)	5(4)	0(0)	0(0)
(奈良)	47(+2)	25(23)	10(13)	3(3)	0(1)	4(4)	0(0)	0(0)
(和歌)	47()	25(27)	5(3)	3(3)	1(1)	4(4)	0(0)	0(0)
(鳥取)	40()	26(28)	8(7)	2(2)	0(0)	1(1)	0(0)	0(0)
(島根)	41()	27(26)	4(5)	1(1)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)
(岡山)	58(+1)	34(36)	7(6)	5(5)	3(3)	2(3)	1(0)	0(0)
(広島)	69()	37(42)	10(9)	6(5)	3(3)	3(2)	0(0)	0(0)
(山口)	54()	31(32)	8(5)	4(5)	2(2)	3(2)	0(0)	0(0)
(徳島)	42()	22(21)	7(6)	2(2)	0(0)	1(1)	0(0)	2(2)
(香川)	45()	29(30)	8(8)	3(3)	1(1)	3(2)	0(0)	0(0)
(高知)	53()	34(35)	5(5)	4(3)	2(3)	1(1)	0(0)	0(0)
(四国)	42()	24(28)	6(5)	4(3)	0(1)	5(3)	0(0)	0(0)
(福井)	90(+1)	31(36)	18(16)	9(8)	3(4)	5(2)	0(0)	11(11)
(佐賀)	42()	29(29)	7(6)	1(1)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
(長崎)	53(-1)	23(20)	10(8)	3(3)	5(5)	1(1)	0(0)	0(0)
(熊本)	56()	36(40)	6(6)	3(3)	0(0)	2(2)	0(0)	0(0)
(大分)	47(-1)	25(27)	9(8)	1(2)	2(2)	2(2)	0(0)	0(0)
(鹿児島)	47()	23(26)	9(8)	3(3)	4(4)	2(1)	0(0)	0(0)
(宮崎)	57()	33(59)	10(8)	3(3)	1(1)	1(1)	0(0)	0(0)
44道府県計	2670(+10)	1382(1487)	443(372)	186(182)	104(100)	118(85)	5(6)	35(41)
非改選	66	54	5	3	0	1	0	0
東京	127	64(60)	11(10)	29(29)	2(2)	19(19)	0	0
沖縄	47	24	5	3	1	4	0	7
全国計	2910	1524	464	221	107	142	5	42

〈注〉①カッコ内=定数は前回と比べた増減、党派別は前回当選者数を示す。東京は行われたので、カッコ内は補選前の数②諸派には進歩党2人、沖縄社会大衆党

政令市議会の新分野

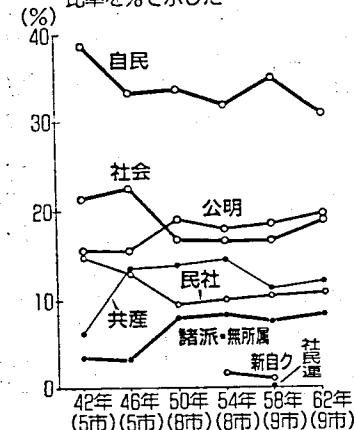
	定数	自民	社会	公明	民社	共産	諸派	無所属
札幌市	70	①	23(26)	19(20)	13(10)	1(0)	—(0)	8(10)
横浜市	94	▼2(9)	25(30)	20(2)(18)	18(17)	14(18)	9(4)(6)	2(3)
川崎市	64	⑦	13(17)	13(2)(12)	11(10)	6(6)	9(3)(9)	1(10)
名古屋市	75	21(23)	16(16)	14(14)	18(14)	5(6)	5(6)	1(2)
京都府	72	⑦	22(24)	10(6)	14(14)	7(7)	19(5)(19)	0(1)
大阪市	90	▼2(7)	28(2)(37)	14(12)	22(2)(11)	9(11)	15(2)(11)	2(0)
神戸市	72	5	20(22)	14(2)(13)	15(16)	12(11)	9(2)(10)	6(8)
広島市	64	△4(2)	34(31)	8(7)	8(8)	3(2)	5(1)(4)	1(2)
福岡市	64	①	18(22)	12(9)	12(12)	1(1)	3(1)(5)	6(2)
合計	665	⑨	204(3)(232)	126(9)(112)	128(3)(122)	71(2)(69)	8019(74)	195(19)
北九州市	64	②	18(18)	9(9)	10(10)	11(12)	8(1)(8)	0(5)
								37(36)

無所属	保守	革新	中道・その他	(新自ク)		
22(22)	5(15)	13(5)	4(2)	—(0)	北海道	森
9(8)	7(7)	0(0)	2(1)	—(0)	青森県	城田
8(11)	5(7)	3(0)	1(4)	—(0)	宮城県	形島
5(12)	3(9)	1(3)	1(1)	—(0)	福島県	木馬
7(6)	3(1)	0(1)	4(4)	—(0)	福島県	玉葉川
3(2)	3(2)	0(0)	0(0)	—(0)	群馬県	奈川
8(10)	7(10)	0(0)	1(1)	—(0)	埼玉県	渕山
13(13)	11(11)	1(2)	1(0)	—(1)	千葉県	福山
7(8)	5(8)	1(0)	1(0)	—(0)	東京	柏原
12(23)	9(19)	3(3)	0(1)	—(0)	神奈川県	千葉
17(8)	16(8)	0(0)	1(0)	—(0)	神奈川県	新宿
22(17)	21(15)	1(1)	0(1)	—(10)	新潟県	川井
8(7)	5(7)	3(0)	0(0)	—(0)	富山県	梨野
9(3)	9(3)	0(0)	0(0)	—(0)	石川県	草薙
6(4)	5(4)	1(0)	0(0)	—(0)	福井県	知重
6(8)	5(8)	1(0)	0(1)	—(0)	福井県	賀部
12(17)	8(13)	2(1)	2(3)	—(0)	滋賀県	郡原良山
16(10)	13(6)	2(0)	1(4)	—(0)	近畿	大津
8(2)	6(2)	1(0)	1(0)	—(0)	奈良県	奈和歌
11(3)	9(3)	2(0)	0(0)	—(0)	和歌山县	豊能
7(6)	5(4)	0(0)	0(2)	—(0)	和歌山县	静恵
13(19)	4(10)	4(4)	5(5)	—(0)	大阪府	瀬戸
10(5)	9(3)	1(1)	0(1)	—(0)	大阪府	大兵奈
5(2)	2(0)	2(2)	1(0)	—(0)	大阪府	良和
8(5)	5(5)	2(2)	1(1)	—(0)	奈良県	堺
14(20)	13(20)	1(0)	0(0)	—(0)	奈良県	和歌
4(7)	4(7)	0(0)	0(0)	—(0)	和歌山县	日高
9(9)	8(8)	0(0)	1(1)	—(0)	和歌山县	日高
3(2)	2(1)	1(0)	0(1)	—(0)	中国	島根県
9(7)	5(5)	2(1)	2(1)	—(0)	島根県	岡山
6(4)	3(3)	0(1)	3(1)	—(0)	島根県	邑智
12(11)	7(6)	0(0)	5(5)	—(0)	島根県	飯石
6(8)	4(4)	1(4)	1(0)	—(0)	島根県	雲南
8(12)	6(12)	2(0)	0(0)	—(0)	四国	徳島県
1(1)	1(1)	0(0)	1(0)	—(0)	高知県	媛知
7(8)	6(8)	0(0)	1(0)	—(0)	香川県	高崎
3(2)	1(1)	1(1)	1(0)	—(0)	香川県	本分
13(12)	8(10)	2(0)	3(2)	—(0)	德島県	長尾
5(6)	3(4)	2(1)	0(1)	—(0)	高知県	大窓
11(8)	10(7)	0(0)	1(0)	—(0)	高知県	鹿児島
10(6)	10(6)	0(0)	2(1)	—(0)	高知县	儿岛
8(7)	6(6)	0(0)	1(0)	—(0)	高知县	屋久
6(5)	5(5)	0(0)	1(0)	—(0)	高知县	鹿児島
9(5)	8(5)	0(0)	0(0)	—(0)	九州	鹿児島
397(371)	291(294)	56(33)	50(44)	—(16)	44道府県 計	計
3(2)	1(0)	0(1)	2(1)	—(0)	茨城県	城
2(2)	0(0)	1(1)	1(1)	—(0)	栃木県	東
3	2	1	0	—(0)	福岡県	沖
405	294	58	53	—(0)	全国計	計

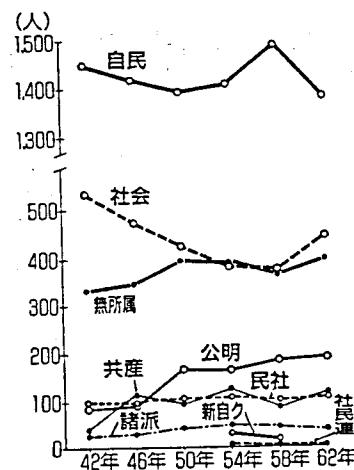
今回補欠選挙（被選挙数5）が
7人を含む。

指定市議党別勢力の推移

（注）党派別当選者が総選挙に占める比率を%で示した



44道府県議選当選者の推移



44道府県議選の党

（注）各党派の数字は得票数、得票率の順。あん分票の端数は加えていない。

	自 民	社 会	公 明	民 社	共 産
北海道	1,264,404 41.0	880,287 28.5	149,453 4.8	30,437 1.0	232,771 7.5
東北	青森 448,548 58.0	104,097 13.5	23,565 3.0	9,574 1.2	40,261 5.2
	岩手 375,746 50.7	134,189 18.1	12,642 1.7	11,923 1.6	26,111 3.5
	宮城 519,649 51.9	201,722 20.1	39,104 3.9	32,154 3.2	76,645 7.7
	秋田 328,558 45.6	193,217 26.8	12,411 1.7	9,677 1.3	32,745 4.5
	山形 332,872 52.3	120,789 19.0	10,127 1.6	13,144 2.1	42,600 6.7
	福島 553,292 50.7	184,317 16.9	39,926 3.7	46,566 4.3	64,410 5.9
関東	栃木 448,631 53.0	107,448 12.7	40,600 4.8	11,858 1.4	25,484 3.0
	群馬 474,838 56.5	127,995 15.2	28,324 3.4	0 0.0	51,117 6.1
	埼玉 1,019,089 48.7	210,212 10.0	200,489 9.6	21,253 1.0	288,201 13.8
	千葉 743,986 39.5	275,361 14.6	145,585 7.7	48,852 2.6	147,979 7.9
	神奈川 723,465 24.5	644,619 21.8	267,598 9.0	311,623 10.5	254,409 8.6
	新潟 617,850 50.6	248,713 20.4	18,296 1.5	14,447 1.2	57,244 4.7
中部	福井 316,165 53.1	100,149 16.8	9,884 1.7	24,422 4.1	30,518 5.1
	岐阜 356,522 65.0	39,280 7.2	22,773 4.2	10,776 2.0	21,669 4.0
	長野 252,278 60.5	47,204 11.3	7,913 1.9	19,793 4.7	17,165 4.1
	愛知 201,825 45.1	54,176 12.1	21,281 4.8	0 0.0	22,481 5.0
	静岡 437,278 37.9	267,160 23.1	29,237 2.5	7,361 0.6	105,593 9.1
	三重 365,431 49.2	79,800 10.7	30,410 4.1	49,584 6.7	57,231 7.7
近畿	滋賀 744,480 52.9	177,857 12.6	118,121 8.4	58,894 4.2	80,144 5.7
	京都 1,067,223 47.0	245,009 10.8	122,580 5.4	348,200 15.3	269,193 11.8
	大阪 384,748 45.4	98,021 11.6	44,631 5.3	11,641 1.4	51,433 6.1
	兵庫 230,638 45.2	15,100 3.0	11,008 2.2	10,892 2.1	41,675 8.2
	奈良 321,061 33.4	98,418 10.2	88,279 9.2	44,878 4.7	270,847 28.2
	和歌山 851,756 27.9	407,667 13.3	560,813 18.3	271,286 8.9	638,658 20.9
中国	岡山 656,798 35.0	301,398 16.1	241,068 12.9	139,618 7.4	224,291 12.0
	広島 298,239 50.9	109,656 18.7	34,754 5.9	8,478 1.4	62,492 10.7
	山口 295,157 50.5	48,942 8.4	35,065 6.0	9,124 1.6	66,502 11.4
	鳥取 216,216 61.6	67,717 19.3	18,471 5.3	0 0.0	20,005 5.7
	島根 274,677 58.6	48,365 10.3	7,914 1.7	0 0.0	29,599 6.3
	福井 375,695 48.0	95,106 12.2	69,401 8.9	42,590 5.4	62,513 8.0
四国	香川 597,032 47.9	171,544 13.8	94,002 7.5	54,817 4.4	85,212 6.8
	愛媛 376,064 50.3	90,628 12.1	57,992 7.8	24,530 3.3	58,133 7.8
	高知 190,054 45.0	64,188 15.2	16,904 4.0	0 0.0	20,309 4.8
	徳島 230,593 61.6	47,443 12.7	26,430 7.1	0 0.0	36,138 9.7
	香川 372,089 55.8	65,873 9.9	47,923 7.2	25,806 3.9	35,939 5.4
	高知 207,113 52.3	56,694 14.3	32,056 8.1	6,274 1.6	60,045 15.2
九州	福岡 727,751 33.2	454,275 20.7	154,303 7.0	72,438 3.3	206,243 9.4
	佐賀 250,661 65.1	35,188 9.1	6,678 1.7	0 0.0	11,004 2.9
	長崎 385,948 46.2	127,319 15.2	38,605 4.6	74,008 8.9	33,024 4.0
	熊本 538,265 55.7	76,715 7.9	36,303 3.8	0 0.0	30,705 3.2
	大分 350,141 50.7	123,121 17.8	28,042 4.1	28,285 4.1	36,907 5.3
	宮崎 328,807 50.9	113,636 17.6	30,154 4.7	47,790 7.4	24,710 3.8
	鹿児島 546,259 55.8	157,370 16.1	36,932 3.8	10,771 1.1	27,999 2.9
合計	20,597,892 44.7	7,317,985 15.9	3,068,047 6.7	1,963,764 4.3	4,078,354 8.9
前回 (58年)	22,118,138 46.8	6,810,389 14.4	2,972,478 6.3	2,113,619 4.5	4,399,103 9.3

今回候補者の諸派には進歩党、サラリーマン新党を含む。

	計	自 民	社 会	公 明
		市	市	市
札幌	772,130	232,853(30.2)	225,855(29.3)	120,211(15.6)
横浜	1,183,916	296,886(23.1)	254,614(21.5)	194,804(16.5)
川崎	467,564	99,262(21.2)	93,451(20.0)	78,630(16.8)
名古屋	718,705	170,122(23.7)	154,417(21.5)	126,436(17.6)
京都	525,183	155,726(28.6)	82,611(15.7)	88,785(16.9)
大阪	1,095,827	315,429(28.8)	155,460(14.2)	248,013(22.6)
神戸	535,380	156,970(29.3)	107,154(20.0)	99,356(18.6)
広島	331,833	156,266(41.1)	50,244(15.2)	43,349(13.1)
福岡	472,234	112,103(23.7)	91,175(19.3)	74,181(15.7)
合計	6,102,571	1,695,318(27.8)	1,214,983(19.9)	1,073,766(17.6)
		前回得票率(32.6)	(16.6)	(17.1)

（読売新聞社調べ）
カッコ内は%



派別得票数と得票率

保守・革新・中道・その他の得票率は無所属の得票総数に対する比率(本社集計)					
社民連	諸 派	無 所 属	(保 守)	(革 新)	(中道・その他)
0 0.0	163 0.0	527,761 17.1	169,529 32.1	223,108 42.3	135,124 25.6
0 0.0	0 0.0	146,687 19.0	115,410 78.7	0 0.0	31,277 21.3
0 0.0	3,451 0.5	176,625 23.8	136,949 77.5	29,548 16.7	10,128 5.7
0 0.0	2,829 0.3	129,564 12.9	75,632 58.4	31,689 24.5	22,243 17.2
0 0.0	0 0.0	143,872 20.0	73,697 51.2	0 0.0	70,175 48.8
43,387 6.8	11,456 1.8	62,601 9.8	62,601 00.0	0 0.0	0 0.0
0 0.0	0 0.0	201,728 18.5	172,469 85.5	7,270 3.6	21,989 10.9
0 0.0	333 0.0	211,443 25.0	169,345 80.1	24,887 11.8	17,211 8.1
0 0.0	322 0.0	157,235 18.7	122,625 78.0	17,136 10.9	17,474 11.1
0 0.0	0 0.0	353,783 16.9	255,245 72.1	86,194 24.4	12,344 3.5
0 0.0	0 0.0	521,877 27.7	491,088 94.1	8,893 1.7	21,896 4.2
0 0.0	105,062 3.6	651,774 22.0	557,684 85.6	74,780 11.5	19,310 3.0
0 0.0	38,737 3.2	225,787 18.5	155,559 68.9	61,837 27.4	8,391 3.7
0 0.0	0 0.0	114,144 19.2	114,144 00.0	0 0.0	0 0.0
0 0.0	0 0.0	97,151 17.7	65,273 67.2	31,878 32.8	0 0.0
0 0.0	0 0.0	72,534 17.4	58,283 80.4	7,386 10.2	6,865 9.5
0 0.0	0 0.0	148,127 33.1	104,016 70.2	22,250 15.0	21,861 14.8
0 0.0	0 0.0	308,544 26.7	250,346 81.1	44,059 14.3	14,139 4.6
0 0.0	0 0.0	147,534 19.9	116,724 79.1	13,249 9.0	17,561 11.9
12,805 1.7	5,448 0.4	221,574 15.8	154,003 69.5	67,571 30.5	0 0.0
0 0.0	0 0.0	219,932 9.7	125,462 57.0	38,949 17.7	55,521 25.2
0 0.0	0 0.0	256,157 30.3	122,030 47.6	58,729 22.9	75,398 29.4
5,423 1.1	97,966 19.2	97,987 19.2	90,086 91.9	7,901 8.1	0 0.0
0 0.0	68,665 7.1	68,927 7.2	21,913 31.8	33,878 49.2	13,136 19.1
0 0.0	47,324 1.5	280,051 9.2	182,235 65.1	56,349 20.1	41,467 14.8
0 0.0	0 0.0	311,399 16.6	256,359 82.3	34,808 11.2	20,232 6.5
0 0.0	3,819 0.7	68,811 11.7	59,732 86.8	9,079 13.2	0 0.0
0 0.0	0 0.0	129,465 22.2	120,183 92.8	0 0.0	9,282 7.2
0 0.0	0 0.0	28,629 8.2	20,955 73.2	7,674 26.8	0 0.0
0 0.0	0 0.0	108,090 23.1	69,794 64.6	23,991 22.2	14,305 13.2
15,064 1.9	0 0.0	121,618 15.6	42,426 34.9	16,005 13.2	63,187 52.0
0 0.0	286 0.0	242,682 19.5	158,448 65.3	0 0.0	84,234 34.7
0 0.0	0 0.0	139,582 18.7	116,305 83.3	8,002 5.7	15,275 10.9
0 0.0	29,840 7.1	100,611 23.8	83,277 82.8	14,201 14.1	3,133 3.1
0 0.0	0 0.0	33,749 9.0	33,749 00.0	0 0.0	0 0.0
0 0.0	0 0.0	119,567 17.9	95,339 79.7	5,511 4.6	18,717 15.7
0 0.0	3,028 0.8	30,816 7.8	17,534 56.9	0 0.0	13,282 43.1
0 0.0	200,570 9.1	376,730 17.2	246,824 65.5	62,232 16.5	67,674 18.0
0 0.0	0 0.0	81,354 21.1	66,098 81.2	15,256 18.8	0 0.0
0 0.0	2,338 0.3	174,060 20.8	157,159 90.3	5,866 3.4	11,035 6.3
0 0.0	0 0.0	284,915 29.5	276,765 97.1	0 0.0	8,150 2.9
0 0.0	0 0.0	124,790 18.1	106,150 85.1	0 0.0	18,640 14.9
0 0.0	0 0.0	100,791 15.6	89,706 89.0	0 0.0	11,085 11.0
0 0.0	0 0.0	200,468 20.5	200,215 99.9	0 0.0	253 0.1
76,679 0.2	621,637 1.4	8,321,526 18.1	6,179,366 74.3	1,150,166 13.8	991,994 11.9
83,601 0.2	825,658 1.7	7,538,675 16.0	5,876,325 77.9	693,842 9.2	968,508 12.8

前回得票数のうち新自ク計354,307(0.8%)は除く

民 社	共 産	諸 派	無 所 属	注
8,214(1.1)	75,462(9.8)	—(—)	109,535(14.2)	には新自クを含み、前回得票率の諸派
191,110(16.1)	122,281(10.3)	70,004(5.9)	53,817(4.5)	に社民連の%は立候補者なし。
22,714(9.1)	65,522(12.0)	19,680(4.3)	68,505(14.7)	
161,111(22.4)	92,713(12.9)	567(0.1)	13,428(1.9)	
52,939(10.1)	135,532(25.8)	—(—)	9,889(1.9)	
108,392(8.9)	221,135(20.2)	406(0.0)	46,992(4.3)	
83,380(15.6)	72,187(13.6)	—(—)	16,035(3.0)	
15,049(4.5)	27,986(8.4)	—(—)	38,739(11.7)	
6,140(1.3)	37,509(7.9)	85,901(18.2)	65,225(13.8)	
669,051(11.0) (10.3)	850,729(13.9) (13.1)	176,558(2.9) (3.2)	422,166(6.9) (7.0)	

47都道府県知事一覧 (※印は今回改選)

知事名	支持政党	当選回数	主な経歴	得票率(%)
※北海道 青森 ※岩手 宮城 ※秋田 山形 福島	横路 孝弘 北村 正哉 中村 直 山本壮一郎 佐々木畠久治 板垣清一郎 松平 勇雄	社連 ① ② 自公民 自公民 自公民 自公民	②衆院議員 ③県議・副知事 ③衆院議員・副知事 ⑤自治参事官・副知事 ③自治消防長官・副知事 ④県会副議長・副知事 ③参院議員	67.5 61.6 58.2 81.0 77.3 85.6 88.0
※茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 ※東京 ※神奈川	竹内 謙男 渡辺 文雄 清水 一郎 玉畑 煙 沼田 武 鈴木 俊一 長洲 一二	自公民 自公民 自公民 和社公民共々連 自公民 自公民	④建設局長・参院議員 ①農林次官 ③県会議長 ④衆院議員 ②副知事 ③自治次官・副知事 ④横国大教授	77.5 89.8 68.8 61.0 74.2 57.8 75.3
新潟 富山 石川 ※福井 山梨 長野 岐阜 静岡 愛知	渕君 健男 中沖 豊 中西 陽一 栗田 幸雄 望月 幸明 吉村 午良 上松 陽助 斎藤滋 岡田 鈴木	自公 自公 自公 自公民 自公民 自公民 自公民連 与史 自公民	④副知事・参院議員 ②自治消防大校長 ⑦自治課長・副知事 ①自治課長・副知事 ③副知事 ②自治調査官・副知事 ③市長 ①市長・衆院議員 ②自治補佐・副知事	57.1 87.5 84.4 66.7 83.8 83.5 86.4 77.1 72.5
三重 滋賀 京都 ※大阪 兵庫 奈良 和歌山	田川 亮三 稻葉 稔 荒巻 祐一 岸昌 貝原 俊民 上田 繁潔 仮谷 志良	自社公民 自社公民 自社公民 自社公民連 自社公民連 自社公民 自公民	④農林・副知事 ①副知事 ①自治課長・副知事 ③自治官房長・副知事 ①自治補佐・副知事 ②副知事 ③副知事	86.8 75.3 61.7 66.6 76.4 80.0 85.6
※鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	西尾 邑次 澄田 信義 長野 土郎 竹下虎之助 平井 龍 三木 申三 平井 城一 伊賀 貞雪 中内 力	自社公民 自社公民 自公民 自社公民 自公民 申三社公民 自社公民 自公民 自公民	②副知事 ①国鉄常務理事 ④自治次官 ②自治・副知事 ③自治課長・副知事 ②県議 ①副知事 ①副知事 ③副知事	83.5 51.1 83.1 85.3 85.1 63.0 97.0 73.4 67.2
※福井 佐賀 長崎 熊本 ※大分 宮崎 鹿児島 沖縄	岡奥田 八二 香月 雄 高田 勇 細川 譲熙 平松 守彦 松形 祐勇 鎌田 要人 西銘 順治	社共連 自 自公民 自公民 自社公民 自公民 自公民 自民	②九大教授 ③副知事 ②自治課長・副知事 ②参院議員 ③通産課長・副知事 ②農林林野長官 ③自治次官 ③衆院議員	52.6 75.7 86.3 90.6 84.3 89.7 88.6 56.0

(注) 政党のマル印は公認。

全国市議会の新勢力分野

(本社調べ) <注>

新勢力分野は、統一地方選の三八七市の結果に非改選二五六市、指定都市一〇市を加えた合計。選舉時の届け出党派によるが、非改選市は選舉後の死去や離党などを修正した。61年末の数字は自治省調べ。

自	社	公	民	社民	無	計
178	185	102	79	412	979	235
78	24	14	11	93	277	382
4	49	17	11	193	155	333
43	36	26	24	234	234	263
30	33	13	27	194	194	372
35	54	20	23	0	0	312
20	43	23	20	0	388	517
24	27	44	13	0	246	364
48	22	26	14	0	222	330
18	32	26	28	11	711	711
90	92	186	140	2	576	911
76	65	99	70	12	271	741
110	84	123	114	13	303	697
71	90	96	68	0	0	1,244
30	66	24	40	0	372	548
104	27	8	13	0	80	240
103	16	12	11	0	64	207
5	12	13	12	1	148	199
0	8	32	7	2	151	179
69	29	31	25	0	370	495
88	46	57	48	0	226	390
124	58	94	64	0	371	631
25	24	31	27	0	575	963
3	9	16	20	0	241	358
40	31	42	71	0	129	186
157	102	196	79	1	137	346
63	77	102	79	0	261	964
18	15	26	21	0	322	688
14	9	33	21	0	132	218
22	20	13	8	0	123	190
7	28	13	14	0	0	0
8	26	29	21	0	0	0
38	38	33	24	0	0	0
27	24	38	33	0	0	0
0	6	11	0	0	0	0
44	18	13	1	0	0	0
100	25	31	10	0	0	0
24	28	23	1	0	0	0
62	65	72	20	13	347	128
35	22	13	4	0	119	66
50	28	19	19	0	118	152
66	29	24	3	0	148	337
36	43	21	11	0	133	236
58	39	21	27	0	170	246
79	40	21	7	0	102	304
32	14	24	23	0	220	297
合計		2,356	1,901	1,947	670	1,667
比率%		12.16	9.81	10.05	3.46	8.60
61年末		2,424	1,919	1,870	680	1,599
比率%		12.37	9.79	9.54	3.47	8.16
					0.07	0.24
					17	46
					88	10,778
					55.62	19.379
					—	—
					0.09	0.45
					15	11,002
					56.14	19,599
					—	—

県議選確定得票

1987.4.12執行

(選挙区名の右のカッコ内は、左が定数、右が候補者数。△印は法定得票数を得た者)

◇鶴見区(4-5)	
当 東野 陽子	54 社現 22,197
当 横山 哲夫	59 自現 20,142
当 笠木 庄吉	53 民現 18,685
当 横松宗一郎	57 公現 18,054
△ 倉崎 武二	58 共新 14,205
◇神奈川区(3-5)	
当 梅沢 健治	58 自現 20,551
当 木村 慎正	47 社元 17,212
田中文一郎	45 公現 17,054
△ 安斎 増蔵	58 民現 13,515
△ 柿原 悅子	53 共元 12,111
◇西区(1-3)	
当 鈴木 喜一	77 無現 16,809
△ 斎藤 達也	52 自現 13,621
大高 久夫	53 無現 3,821
◇中区(2-4)	
当 村上 健司	48 自現 18,403
当 宇山 音吉	68 社現 17,053
高山 修	31 共新 4,153
吉川 朝臣	53 無現 1,954
◇南区(3-5)	
当 新堀 典彦	46 無現 21,176
当 葛西 清季	49 公現 18,884
当 石渡 清元	46 自現 16,975
△ 荒木 郁子	56 共新 10,522
△ 牧島佐代子	38 諸新 8,338
◇港南区(3-4)	
当 関野 安夫	66 社現 26,263
当 荒井 正巳	54 自現 18,745
当 碓井 貞弘	53 無現 18,232
△ 関 美恵子	41 共新 11,658
◇保土ヶ谷区(3-5)	
当 森 秀子	53 社現 24,188
当 橋並 寛	48 自現 17,285
当 渋谷 文久	49 公新 15,240
△ 高谷 清	39 民現 9,280
△ 藤井 悅雄	35 共新 6,511
◇旭区(4-5)	
当 横口 旭	44 社現 23,698
当 佐藤 正之	47 民現 22,816
当 相馬 元治	63 自現 19,757
当 中原 淳一	43 公元 16,390
△ 難波 宏次	43 共新 9,983
◇磯子区(3-4)	
当 林 貞三	50 社現 22,303
当 関田 吉弘	61 民現 15,703
△ 新井敏二郎	55 自新 14,669
△ 山口 良樹	31 諸新 10,020
◇金沢区(3-4)	
当 安部 正	55 社現 23,033
当 阿部 紀慶	46 民現 19,327
当 峰尾 恭人	69 自現 17,527
△ 田中千重子	60 共新 8,376

◇宮前区(2-3)	
当 三宅 丈夫	52 社現 26,694
当 小泉 一郎	57 自現 24,303
△ 山崎 雅子	33 共新 10,546
◇多摩区(2-4)	
当 青島 章介	49 社現 22,554
当 井口 隆時	67 自現 20,222
△ 町山 良行	46 無新 8,753
△ 笹輪 悅子	37 共新 8,688
◇麻生区(2-4)	
当 松沢 成文	29 無新 16,625
当 小林フミ子	61 社現 15,520
△ 安藤木左右	70 自現 8,244
高岡み子	54 共新 4,457
◇横須賀市(7-10)	
当 高村万之助	55 公現 24,920
当 竹内 清	62 自現 22,901
当 高島 肇	51 民現 22,417
当 渡辺 哲	61 社現 20,790
当 小島 幸康	61 自現 17,377
当 峰村 利江	45 共現 15,235
当 広瀬鉄太郎	54 民現 13,618
△ 佐藤 務	29 無新 6,850
◇戸塚区(3-4)	
=栄・泉両区が分区	
当 梅木 武夫	50 社現 36,675
当 南雲 勝利	48 自現 24,889
当 松田 良昭	52 公現 19,081
△ 大森 猛	34 共現 12,258
◇戸塚区(3-4)	
=栄・泉両区が分区	
当 虎岩 英伍	44 社現 19,225
当 佐藤謙一郎	40 自現 15,284
△ 酒井 文彦	33 民現 13,553
◇泉区(2-3)	
=新設	
当 杉山喜三男	62 社現 18,678
当 鈴木 一誠	44 自現 17,518
△ 小山 栄次	54 民現 13,943
◇瀬谷区(2-3)	
=新設	
当 石井 武治	57 公元 20,991
当 武田郁三郎	54 無現 18,027
当 柏木 進一	73 民現 17,692
△ 畠谷 嘉宏	41 共新 17,601
△ 高橋 守雄	53 自現 17,289
◇幸区(2-4)	
=定数1増	
当 山田吉三郎	55 自現 22,014
当 此村 善人	39 公新 17,508
△ 金井 弘年	47 社現 16,458
△ 齐藤 泉	35 共新 8,574
◇中原区(3-4)	
=定数1減	
当 奥村 栄	61 社現 27,634
当 原 正巳	57 無現 24,364
当 田島 信雄	72 自現 16,249
△ 赤塚 博美	36 共新 8,665
◇高津区(2-4)	
当 石川 滋	61 社現 21,524
当 小川 栄一	43 無元 18,362
△ 齐藤 雄輝	45 自現 14,593
太田 博史	36 共新 6,666
◇藤沢市(5-8)	
当 木居 祐三	52 社現 25,533
当 熊山喜三郎	69 自現 19,358
当 服部 圭介	41 公現 18,622
当 海老原 隆	59 民現 17,638
当 番場 定季	46 無現 16,584
当 渡辺 光男	51 無新 13,558
△ 大山 正雄	48 共新 11,064
△ 飯田 玲子	54 無新 7,656
◇小田原市(3-5)	
当 岩田 勤	54 社現 20,294
当 小沢 良明	43 無新 18,955
当 豊島 雄慶	43 民現 18,757
△ 山口 武利	61 自現 12,975
△ 秋山 政勝	44 自現 10,955
◇茅ヶ崎市(3-5)	
当 小川伊之助	63 社現 19,160
当 横田 光弘	29 無新 17,892
当 添田 高明	51 無現 15,875
△ 清水洋一	50 民現 12,055
△ 青木信二	56 自現 11,424
◇逗子・三浦(1-2)	
当 菊池 正治	56 無現 19,053
△ 信太 正道	60 無新 17,356
◇相模原市(7-9)	
当 広田 武治	57 社現 31,299
当 越智清志	59 公現 27,777
当 岩本直通	69 自現 23,769
当 桐生忠一	48 自現 20,974
当 赤間一之	51 自現 19,681
当 石井充	63 民現 19,143
当 山下広一	60 共現 18,854
△ 小川勇夫	56 無現 17,908
△ 川口勝信	44 無新 754
◇三浦市(1-2)	
当 吉田 実	66 無現 12,812
△ 川崎喜正	47 無新 10,633
◇秦野市(2-3)	
当 久保寺邦夫	50 無現 25,970
当 杉山重雄	62 自現 10,760
△ 吉村慶一	31 無新 5,576

県議党派別当選者数・得票数						
(定数)	計	現	元	新	前回 当選	得票数
115	115	84	4	27	115	2,958,550
自民	31	27	0	4	37	723,465
社会	28	20	1	7	23	644,619
公明	14	8	2	4	13	267,598
民社	13	9	0	4	12	311,623
共産	2	2	0	0	3	254,409
諸派	5	2	0	3	0	105,062
無所属	22	16	1	5	17	651,774
保守	21	15	1	5	15	557,684
革新	1	1	0	0	1	74,780
その他	0	0	0	0	1	19,310
合計						(女性7人)
新自立 (10含む)						

諸派には進歩党2人を含む

◇厚木市(3-5)	◇海老名市(1-2)	◇高座郡(1-2)	◇足柄下郡(1-2)
=定数1増	当 水島 祐吉 59 諸新 18,772 △ 伊波 登 60 無現 16,204	当 大久保千恵 58 無現 11,331 △ 藤沢喜代治 61 無新 6,615	当 高橋 実 51 無現 16,319 越地 怜子 48 共新 2,533
当 小沢 金男 58 自現 19,404 当 山口 嶽雄 44 諸新 14,665	◇座間市(1-2)	◇中郡(1-2)	◇愛甲郡(1-2)
当 大桃 正子 32 社新 12,617 △ 堀江 則之 43 無現 12,032	=定数1減	当 古沢 吉郎 52 無新 14,366 △ 古沢 時衛 41 自新 11,451	当 小島 鎮夫 64 無現 11,620 鈴木 清 61 共新 1,352
△ 又木 京子 37 諸新 5,885	当 小堺 金治 64 無現 21,783 △ 鹿野文三郎 64 自現 13,133	◇足柄上郡(1-2)	◇津久井郡(1-2)
◇大和市(3-4)	◇南足柄市(1-2)	当 田村 政晴 50 無現 24,164 尾尻 孝和 34 共新 2,608	当 榎本 与助 41 自新 15,761 △ 吉村 勝臣 52 無新 15,167
当 遠藤 忍 63 社現 20,214 當 富沢 篤絃 47 自新 20,042	=定数1減	当 田室 清 67 無現 11,100 △ 青木 尚行 40 無新 8,809	
当 益田 育 46 公新 16,890 △ 江田 実 53 無現 13,630	◇綾瀬市(1-2)	当 小山田兵衛 68 自現 14,255 △ 永井 清治 56 無新 9,084	
◇伊勢原市(1-2)			
当 飯田 光雄 63 諸新 16,532 △ 石井 平 70 無現 16,484			

横浜市議選確定得票

1987.4.12執行

◇鶴見区(8-11)	◇南北区(6-7)	◇金沢区(5-8)	◇戸塚区(7-9)
=定数1減	=定数1減	=定数1減	=栄・泉両区分
当 岩下 義正 51 社現 15,116 当 北村 昭三 54 民現 13,517	当 斎藤 勲 41 社新 18,002 当 遠藤 望 52 公現 15,179	当 松浦 照朝 50 民現 9,813 当 関 貞彦 51 自現 9,255	当 川辺 芳男 32 民新 11,859
当 宮下 泉 46 共現 11,187 当 宮下 泉 46 共現 11,187	当 酒井 麻雄 57 民現 10,782 当 酒井 豊四 66 自現 10,414	△ 矢作久美子 37 共新 6,364 △ 浅田 康夫 60 自現 5,137	当 高橋紀代子 49 共現 11,800
当 竹内 清 46 公新 9,284 当 丸岡 哲也 49 公現 8,559	当 竹田 純子 53 共新 8,660 当 鈴木 正之 53 自現 8,184	当 島根 正昭 40 無新 1,250 当 松本志津子 52 共新 8,631	当 星野 国和 40 社新 11,460
当 横山 健一 72 自現 8,151 当 門司 脩 61 民現 7,997	△ 関崎 正光 56 無現 5,349	△ 相川 光正 52 自現 8,560 △ 渡邉喜久雄 57 進新 5,756	当 大庭 正雄 41 公現 11,205
当 山田静六郎 71 自現 7,156 △ 添田清二郎 70 自現 6,981	◇港南区(6-8)	△ 浜野 充功 52 無新 2,137 当 浜野 充功 52 無新 2,137	当 有山 雄男 61 社現 9,889
△ 田中 裕子 51 無新 5,410 △ 杉下 雅一 39 無新 212	◇港北区(9-14)	◇栄区(4-7)	当 内田 重雄 45 民新 9,144
◇神奈川区(7-8)		=新設	当 米田 伸三 39 共新 8,069
=定数1減			△ 吉原 訓 40 自新 7,635
当 中川 俊介 46 社現 13,735 当 石井 瞳美 40 公現 13,249	当 安藤 和男 47 社現 17,316 当 斎藤 保雄 59 公現 13,041	△ 桜井 康信 63 無元 6,447	当 森 62 社現 10,706
当 福田 進 45 自現 11,505 当 加藤 尚彦 50 民現 9,059	当 池谷 泰一 46 民現 9,840 当 田野井一雄 46 自現 9,489	△ 野村 忠義 41 自現 10,038	当 飯島 志義 41 共現 10,038
当 岩本 正夫 74 民現 8,859 当 小林 幸 60 共現 8,236	当 澄之間 功 59 自現 8,989 当 吾郷 敦信 45 無現 8,163	△ 角田 和宏 51 無現 7,796	当 角田 和宏 51 無現 7,796
△ 蟹沢 道子 45 諸新 8,148 △ 堀江 芳雄 47 民現 7,641	△ 宗形 孝至 42 共新 7,446 △ 石原 雅之 29 諸新 2,667	△ 木内 博 30 諸現 9,502 当 木内 博 30 諸現 9,502	当 井上 浩明 51 公現 7,512
◇西区(2-5)	◇保土ヶ谷区(6-8)	△ 田口 良作 57 公現 8,406 当 田口 良作 57 公現 8,406	△ 菅野 義矩 39 民新 6,325
=定数1減		当 鈴木 義久 42 公現 8,100 当 勝野 志義 55 共元 8,025	△ 石沢 庸憲 57 共元 3,574
当 後藤 洋一 51 公現 9,584 △ 菅 義偉 38 自新 8,813	当 大久保英太郎 66 社現 13,456 当 植原 重正 59 公現 12,334	△ 吉原 良治 52 自現 7,676 当 横溝 義久 47 民現 7,673	△ 井上 節子 47 無新 3,385
△ 常盤 栄司 46 社新 8,158 △ 金子 勝雄 56 民現 7,855	当 加藤 賢治 44 社現 8,951 当 中村 達三 46 自現 8,907	△ 飯田 正夫 62 共現 7,552 当 松本久美子 37 諸新 7,288	区(4-6)
△ 本田 潤 31 共新 1,999	当 内田 八重子 61 共現 8,621 当 坂井 志 48 自現 8,624	△ 古市 豊子 75 民現 5,714 当 入江 勝通 43 無新 486	=新設
◇中区(4-7)	◇旭区(7-8)	△ 丹野 貞子 50 社現 17,213 当 向田 映子 40 諸新 13,500	当 松本 敏 40 民新 11,209
=定数1減		当 安田 卓全 67 社現 10,720 当 小林昭三郎 58 自新 10,328	当 中島 恵五 40 社現 9,905
当 松村千賀雄 60 自現 9,075 当 広瀬 礼子 56 社現 8,462	当 深津 盈 46 公現 13,934 当 栗原 幸雄 59 民現 12,614	△ 佐々木 齊雄 55 共現 9,383	当 喬雄 55 共現 9,383
当 道臨 邦彦 45 公現 8,140 当 小俣 健 54 民現 6,317	当 石崎 武 61 社現 12,391 当 内田 武大 66 自現 12,119	△ 松本久美子 75 民現 5,714 当 石井 義了 48 公現 9,550	当 奥津 儀堀 56 公元 7,813
△ 北村清之助 71 自現 6,265 △ 宇都宮夕美子 37 共新 3,368	△ 堀井 十郎 60 社現 12,050 当 久保田伸郎 59 自現 9,554	当 大曾根鉢一 63 自現 9,474 当 島村 勝夫 46 自現 9,412	当 治雄 58 自現 7,515
平本 治次 34 無新 2,277	△ 間野 和彦 42 無新 4,482 △ 荒木 二男 50 新民 7,570	当 大曾根鉢一 63 自現 9,474 当 大曾根鉢一 63 自現 9,474	△ 池田 光枝 40 共新 6,207
◇東区(4-7)	◇磯子区(5-8)	△ 丹野 貞子 50 社現 17,213 当 向田 映子 40 諸新 13,500	◇瀬谷区(3-5)
=定数1減	=定数1減	当 安田 卓全 67 社現 10,720 当 小林昭三郎 58 自新 10,328	=定数1減
当 松村千賀雄 60 自現 9,075 当 広瀬 礼子 56 社現 8,462	当 深津 盈 46 公現 13,934 当 栗原 幸雄 59 民現 12,614	当 丹野 貞子 50 社現 17,213 当 向田 映子 40 諸新 13,500	当 花上 審代志 40 民現 11,731
当 道臨 邦彦 45 公現 8,140 当 小俣 健 54 民現 6,317	当 石崎 武 61 社現 12,391 当 内田 武大 66 自現 12,119	当 安田 卓全 67 社現 10,720 当 小林昭三郎 58 自新 10,328	当 内川 健治 40 社新 10,178
△ 北村清之助 71 自現 6,265 △ 宇都宮夕美子 37 共新 3,368	△ 堀井 十郎 60 社現 12,050 当 久保田伸郎 59 自現 9,554	当 石井 義了 48 公現 9,550 当 大曾根鉢一 63 自現 9,474	当 中野 善寿 50 公現 9,686
平本 治次 34 無新 2,277	△ 間野 和彦 42 無新 4,482 △ 荒木 二男 50 新民 7,570	当 島村 勝夫 46 自現 9,412 当 大曾根鉢一 63 自現 9,474	△ 川口 正寿 44 自現 8,690
	△ 丹野 貞子 50 社現 17,213 当 向田 映子 40 諸新 13,500	当 大曾根鉢一 63 自現 9,474 当 大曾根鉢一 63 自現 9,474	△ 増田 恒雄 55 共元 8,448

川崎市議選確定得票

1987.4.12執行

(選挙区名の右のカッコ内は、左が定数、右が候補者数。△印は法定得票数を得た者)

◇川崎区(11-13)	森 宏一 57 無現 5,355 宮田 良辰 60 自現 4,911 鈴木 敷 51 共現 4,574 大貫 和子 54 共現 4,396 猪股 美恵 37 諸新 3,693 仁尾 敬一 49 民新 2,471 浅沼 輝国 61 無現 2,457
=定数1減	
当 田中 和徳 38 自現 11,769	
当 近藤 正美 51 民現 9,829	
当 増淵 栄一 56 無現 8,975	
当 松野 智 59 公現 8,843	
兼次 吉雄 53 公現 8,609	
当 栄居 義則 45 社現 8,304	
当 飯塚 双葉 53 共新 7,178	
当 宮原 春夫 44 共新 6,905	
当 関根 則子 39 社新 6,751	
当 小俣 博 64 無現 6,676	
当 青木 保治 62 無現 5,931	
山田 宗信 36 無新 808	
山岸 梅茂 73 無新 257	
◇幸 区(8-10)	
=定数1増	
当 増子 利夫 57 社現 6,828	
当 大場 正信 46 公現 6,208	
当 青山 仁三 56 社新 6,046	
当 寺田 悅子 51 諸現 5,944	
当 平子 滉夫 40 共新 5,363	
当 前川 清治 53 共現 5,314	
当 小泉 昭男 41 無新 4,943	
当 柏木 雅章 52 民現 4,792	
当 中尾 治夫 65 自現 4,676	
当 沼尻 真 67 無現 7,548	
当 渡辺 好雄 65 社現 6,926	
当 野村 敏行 50 自現 6,787	
当 松村 仁 56 無現 5,742	
当 田中 浜男 63 社現 5,281	
△ 齐木マサ子 60 自新 4,812	
加藤 民子 36 諸新 794	
◇中原区(11-13)	
当 立野 千秋 39 社現 10,081	
当 平山 孝司 62 民現 7,545	
当 志村 勝 39 公現 7,206	
当 福島 善治 51 社元 6,794	
当 松島 輝雄 46 公現 6,489	
当 市古 映美 37 共新 6,002	
当 原 修一 38 自現 5,959	
当 市川代三郎 54 自現 5,514	
当 神林 定雄 63 共現 5,381	
当 長谷川泰弘 40 自新 5,166	
当 高 嶽 51 自新 4,705	
△ 長瀬 政義 48 自新 4,254	
△ 金子順一郎 60 自現 3,822	
◇高津区(9-14)	
当 大島 保 61 自現 7,444	
当 小島 恵一 57 社現 6,959	
当 佐藤 忠 45 社新 6,592	
当 水科宗一郎 48 公現 6,261	
当 大川 智照 56 公現 6,086	

市議選確定得票

1987.4.26執行

◇横須賀市(48-53)	安田 和義 47 公現 3,374 神保 浩 51 無現 3,368 渡辺 好徳 59 社現 3,301 長谷川淳一 50 民現 6,031 加藤 純子 53 無現 5,522 三川 峰雄 52 無現 5,265 川名 武雄 66 無現 5,206 加藤 行一 52 無現 4,921 佐藤 良一 55 民現 4,920 青木 広茂 58 無現 4,738 山ノ上好勝 37 社新 4,279 渡辺 和俊 45 自新 4,132 竹折 輝隆 43 自現 4,112 嘉山 照正 40 無現 4,032 本田 実 57 自現 3,963 木村 正孝 44 自新 3,947 荒井銀三郎 62 社現 3,945 杉山 雄二 42 公新 3,864 増田 隆三 55 無現 3,757 山田 泰之 45 公現 3,748 内藤 治明 45 社現 3,657 高橋 正勝 56 無現 3,575 加納 洋一 49 公現 3,567 高橋 敏明 45 民現 3,565 後藤 秀樹 51 無現 3,536 小久江利光 50 公現 3,436 水口 幹雄 48 民現 3,406 小松 社由 57 共現 3,397	当 三井 修次 60 公現 3,300 当 根岸 峰夫 47 共現 3,283 当 青木 良夫 59 社現 3,275 当 秋山 邦博 53 社現 3,274 当 井料 克己 57 自現 3,227 当 奥山 勝英 50 公現 3,214 当 田代 正明 61 公現 3,207 当 堀 幸男 63 社現 3,206 当 横井 煉 63 自現 3,088 当 久保田寿枝 69 無現 3,046 当 若山 豊 50 無現 3,045 当 今野 弘 47 無元 3,043 当 岩崎 一男 64 自現 3,001 当 雜賀 初男 65 無現 2,871 当 石渡 吉男 69 自現 2,734 当 坂倉 桶男 56 自現 2,731 当 川島 幸雄 56 自新 2,721 当 石沢 偉男 46 共現 2,628 当 高木 信 64 自現 2,588 当 島田 泰輝 62 自現 2,537 当 渡辺 康邦 65 社現 2,480 当 鶴田 俊徳 36 民新 1,857 当 柳下 思順 77 自元 1,523 当 追田 富雄 37 無新 766
--------------	--	---

	定数	社会党系		公明党	民社党系
		会派の名称	人数		
神奈川県	115	社会党	28	公明党	14 民社党 13
横浜	94	社会党	20	公明党	19 民社党 14
川崎	64	社会党	13	公明党	11 民社党 6
横須賀	48	社会市民連合	7	公明党	8 民社クラブ 5
三浦	24		(1)	公明党	2 清風クラブ 3
藤沢	44	社会党	8	公明党	6 民社クラブ 4
茅ヶ崎	30	社会党	7	公明党	4 (1)
相模原	46	社会クラブ 5		公明党	8 民社クラブ 5
大和	32	社会党	4	公明党	5 無所属クラブ 1
綾瀬	26	社会党	3	公明党	3 市民クラブ 2
平塚	36	社会党革新 7		公明党	5 民社党 4
小田原	32	社会党	4	公明党	4 民社クラブ 3
伊勢原	28	社会党	7	公明党	3 民社党 2
南足柄	26	社会党	2	公明党	2

◆平塚市(36-40)	当 山口 幸男 58 無現 2,232	当 関根宗四郎 54 無現 2,733	当 大野 真一 45 無新 3,775
=定数 4 減	当 神谷 隆 58 社現 2,203	当 長谷川忠勤 62 民現 2,712	当 川久保和男 63 無現 3,207
当 伊藤亨 25 無新 7,094	当 三上 正 48 共現 2,061	当 清水 勝人 47 公新 2,681	当 加賀江 巴江 70 無現 3,169
当 府川勝司 63 民現 4,879	当 鈴木十四郎 61 無現 2,053	当 増井 秀夫 36 公新 2,678	当 二見 健一 47 公現 3,098
当 水野泰助 37 民新 3,622	当 臨辰雄 59 無現 2,050	当 藤谷 昌男 50 共現 2,676	当 船津 常治 54 無現 3,024
当 落合良延 56 無現 3,474	当 田元 香 46 共現 1,971	当 村上 梯介 43 公現 2,596	当 相川正義 50 社現 3,013
当 小林長治 56 民現 3,316	当 田中 幸雄 43 共現 1,918	当 日原 通晴 44 社現 2,593	当 山口辰章 55 無現 2,885
当 長塚洋三 52 民現 3,287	当 堀一成 41 共現 1,879	当 高山年正 60 無現 2,575	当 高村和雄 54 公現 2,844
当 古家安正 43 無新 3,238	当 小林保雄 50 無新 1,405	当 平沢信雄 55 自現 2,527	当 山田文雄 59 公現 2,779
当 岡崎伊和男 52 社新 3,084	当 池田鳩美 48 無新 687	当 今村信也 44 共現 2,520	当 高松民吉 50 公現 2,756
当 土屋照久 61 社現 3,066	◆藤沢市(44-48)	当 潤川進 47 社現 2,515	当 大曾根善治 61 無新 2,714
当 柳川芳徳 56 自現 3,000	当 鈴木明夫 46 民現 4,769	当 桜井正平 50 無現 2,496	当 莊司悦郎 59 社現 2,703
当 上原幸子 56 無新 2,956	当 小川竹次郎 59 民現 4,089	当 内田末吉 49 公現 2,475	当 池田六美 51 無新 2,693
当 奥山晴治 44 公現 2,891	当 山本捷雄 42 自現 3,742	当 木村栄子 39 無新 2,464	当 下川脩平 57 無現 2,665
当 前田晃 46 公現 2,878	当 鈴木恒夫 37 無現 3,446	当 二見友久 45 自現 2,444	当 中村保 56 社現 2,662
当 高梨孝治 42 公新 2,870	当 平木昇策 61 無現 3,288	当 岸本英夫 51 公現 2,423	当 穂谷野昭作 60 無現 2,653
当 大藏律子 48 無新 2,830	当 滝沢茂男 39 無現 3,190	当 加藤章二 56 公新 2,415	当 内田輝夫 58 共元 2,643
当 富田常蔵 61 公現 2,817	当 要原義夫 44 無新 3,186	当 宮地淳子 40 共現 2,411	当 石黒明 60 社現 2,599
当 稲坂光俊 45 公現 2,793	当 吉田信行 50 無現 3,095	当 原島正一 56 共現 2,397	当 松岡隆男 52 公現 2,595
当 後藤輝彦 44 社現 2,738	当 吉田敏夫 49 社現 3,050	当 関根久男 64 無現 2,322	当 植野恵二 56 無現 2,573
当 高橋盛司 59 無現 2,710	当 山口井上好明 49 無現 2,294	当 柳谷亮子 41 無現 2,294	当 中野隆雄 42 無現 2,529
当 小林誠一 67 無現 2,630	当 落合四郎 61 自現 3,019	当 井上好明 60 無現 2,263	当 今井英竜 63 民現 2,461
当 片倉常夫 54 無現 2,621	当 西尾まつ枝 53 社新 2,987	当 杉山幸春 67 無現 2,160	当 吉田晴治 59 無元 2,432
当 加藤豊宏 55 無現 2,616	当 五十嵐紀子 48 社現 2,969	当 内田松男 59 民現 2,094	当 須田勝次 57 民新 2,322
当 柳川藤一 61 社現 2,584	当 後藤敏夫 52 自現 2,927	当 柳沢潤次 35 共新 1,925	当 鈴木志真夫 47 無現 2,240
当 杉山和夫 65 無現 2,397	当 長田良彦 58 無現 2,866	当 貞包慶 48 無新 1,889	当 遠藤周平 64 無現 2,236
当 相原捨治 54 無現 2,365	当 黒江貞子 59 社現 2,862	当 水越靖典 45 無新 1,887	当 岡崎明 52 共新 2,098
当 関本清司 54 無現 2,338	当 中山五福 51 社現 2,855	当 桜井郁三 43 自現 1,815	当 川口真男 56 無現 2,094
当 武井ひろ子 39 諸新 2,317	当 宮治政弘 55 自現 2,844	◆小田原市(32-36)	当 宗形寿家 61 民現 1,943
当 和田桂司 69 無現 2,274	当 西条節子 58 無現 2,839	=定数 4 減	当 下村英之 44 無現 1,941
当 高橋善孝 35 社現 2,269	当 藤村久子 42 諸新 2,776	当 守屋喜代松 56 無現 4,235	当 関野隆司 39 共新 1,856
		当 磯貝捷彦 43 無新 3,882	当 田中和彦 57 無現 1,853
			当 細田常夫 56 無現 1,762
			古沼利幸 49 無新 342

県・市議会の会派別議席の現状

共産党	NET	無 所 属				
		革新系	自民党系	旧新自ク系	その他の会派	
共産党 1	ネットワーク横浜 3	無所属 1	自民党 41		県政会 16	神奈川県
共産党 9	ネットワーク川崎 2	無会派 (MPD) 1	自民党 27	自由クラブ 1		横浜
共産党 9			自民党 14	市民クラブ 4	同志会 5	川崎
共産党 3			自民党 12	新政会 12	無所属 1	横須賀
共産党 4		無所属 1	自民クラブ 7	新生クラブ 7		三浦
共産党 4	(1) 市政市民会議 4	自由同志会 16	市民党 2			藤沢
共産党 4		無会派 1	市政同友会 3	茅創会 10	無会派 1	茅ヶ崎
共産党 3		無会派 (MPD) 1	市政クラブ 24			相模原
共産党 4	無所属 1		清和会 15	無会派クラブ 1		大和
共産党 2			新政会 14		新綾会 2	綾瀬
共産党 2	1	市民クラブ 1	新風クラブ 7	市政クラブ 8	無会派 1	平塚
会派なし 2					政和会 4、市民クラブ 4 新政会 4、清和会 3	小田原
共産党 2			大政会 14	新政会 6		伊勢原
共産党 2			自民党 1		民生会 8、政友クラブ 5 緑風会 3、無会派 3	南足柄

() 内はその系列であるが他の会派に属しているか無所属となっているもの

◇茅ヶ崎市(30—37)

当 山崎 永蔵 47 無現 4,156
 当 中島 皓夫 46 社新 3,758
 当 岸 良峰 53 社現 3,541
 鈴木 孫文 62 無現 3,336
 井出 明治 49 公現 3,027
 石黒 一雄 57 民現 2,982
 佐藤富士夫 50 無元 2,944
 当 岸 芳雄 65 無現 2,824
 古井 信雄 55 公現 2,817
 佐藤 真栄 61 社現 2,806
 服部 信明 25 無新 2,747
 岩本 一夫 39 無現 2,722
 浜田 敏江 50 公現 2,703
 西山 正子 50 無現 2,692
 根岸 忠藏 59 無現 2,630
 吉川 幸雄 51 社現 2,562
 高橋 輝男 36 公新 2,294
 岡本 貞雄 52 無新 2,283
 吉開 燐隆 54 自現 2,269
 佐々木良文 60 共現 2,255
 新倉 弘保 39 無新 2,214
 亀井 隆義 73 自現 2,205
 中田千代吉 65 無新 2,164
 溝口 優子 62 共現 2,135
 西沢 良春 39 無新 2,117
 金子 孝一 47 無新 2,047
 田畑 一男 63 無現 1,986
 内田 品子 46 共新 1,958
 南里 吉夫 53 共現 1,898
 平井 肇 58 無新 1,672
 潟尾 俊二 43 無新 1,510
 野口長七郎 63 無現 1,334
 熊沢 晶 60 無現 1,260
 松本 幹夫 54 無新 1,202
 長谷川清久 57 無新 1,003
 津田 吉康 67 無新 453
 江畑 直俊 44 無新 311

◇相模原市(46—56)

寺山 猛 41 無現 7,972
 細谷 達司 54 無現 5,687
 高橋 修一 40 民現 5,278
 金井 勝一 57 無現 5,117
 山下 昌志 50 無現 4,749
 鈴木 和雄 58 無新 4,745
 秋山 原宏 50 社現 4,711
 山岸 一雄 51 無現 4,672
 友成 洋一 42 社現 4,472
 宮崎 升 54 無現 4,399
 小俣 三弦 51 社現 4,281
 今井 澄 51 無現 4,238
 富田 光男 44 公現 4,224
 石井千太郎 51 無現 4,218
 河本 文吉 62 無現 4,215
 荒井 昭二 59 無現 4,097
 田中 仁 64 無現 4,091
 久保田義則 54 無新 4,045
 大石 実 45 無現 4,033
 長友 義樹 42 無現 3,992
 小山 一夫 57 無現 3,977
 小山 文司 57 無現 3,911
 山田 弘 45 公新 3,741
 鴨下 大二 47 民現 3,677
 由比 昭男 53 民現 3,655
 草窪 幸雄 66 無現 3,638
 川手 秀和 40 共元 3,629
 金井ハツエ 46 公現 3,611
 加藤 長治 71 無現 3,547
 郁町 廉治 58 社元 3,543
 小倉 増三 45 公現 3,508
 小林 一郎 38 公現 3,444
 小磯 洋 63 無現 3,441
 菅野 通子 45 共現 3,416

当 上田 忠男 52 公現 3,398
 当 高橋 定雄 60 公現 3,302
 当 角田 幸作 61 無現 3,281
 当 折笠 峰夫 53 公現 3,263
 当 古木 秀夫 43 無新 3,245
 当 井上 一雄 62 無現 3,232
 当 細谷 隆 61 無現 3,192
 当 長谷川久美子 25 諸新 3,101
 当 木村 峰子 53 共新 3,076
 当 満瀬 誠之 63 無現 3,059
 当 服部 忠藏 68 無現 3,299
 当 岩本 一夫 41 無現 2,869
 浜田 敏江 50 公現 2,703
 西山 正子 50 無現 2,692
 根岸 忠藏 59 無現 2,630
 吉川 幸雄 51 社現 2,562
 高橋 輝男 36 公新 2,294
 岡本 貞雄 52 無新 2,283
 吉開 燐隆 54 自現 2,269
 佐々木良文 60 共現 2,255
 新倉 弘保 39 無新 2,214
 亀井 隆義 73 自現 2,205
 中田千代吉 65 無新 2,164
 溝口 優子 62 共現 2,135
 西沢 良春 39 無新 2,117
 金子 孝一 47 無新 2,047
 田畑 一男 63 無現 1,986
 内田 品子 46 共新 1,958
 南里 吉夫 53 共現 1,898
 平井 肇 58 無新 1,672
 潟尾 俊二 43 無新 1,510
 野口長七郎 63 無現 1,334
 熊沢 晶 60 無現 1,260
 松本 幹夫 54 無新 1,202
 長谷川清久 57 無新 1,003
 津田 吉康 67 無新 453
 江畑 直俊 44 無新 311

◇伊勢原市(28—32)

当 鈴木久次郎 54 無新 2,142

当 池田俊一郎 39 公新 2,072
 当 太田 徳行 47 社現 2,069
 当 真壁 以脩 55 無現 2,039
 当 藤本金太郎 59 無現 2,012
 当 太田 博太郎 57 公現 1,987
 当 鶴 純 48 共現 1,981
 当 宮応扶美子 42 共新 1,862
 当 村越 剛 50 共現 1,807
 当 浦野 恒千 51 無現 1,739
 当 中村 晴良 58 無現 1,568
 当 鈴木 利男 56 共現 1,535
 当 木屋 侯保 41 無新 1,514
 当 石井 翼郎 45 無現 1,484
 当 小松 幸一 59 無現 1,198
 当 津森 正也 62 無元 659
 当 小川 正蔵 51 無新 654
 当 宝珠山弘巳 47 無新 415

◇三浦市(24—28)

当 川石 節治 45 民現 2,228

当 前田 好夫 42 民新 1,987
 当 菊貫 齐雄 56 無現 1,862
 当 石井 誠一 45 社現 1,722
 当 長塚 栄 62 無現 1,593
 当 三橋 邦明 71 無現 1,526
 当 石川 一正 51 無新 1,458
 当 越地 正 56 無新 1,402
 当 湯井 博 65 無現 1,375
 当 森本 一雄 53 公新 1,362
 当 山本 博 61 無現 1,359
 当 延原 昌樹 54 無新 1,309
 当 萩原 安喜 55 無現 1,245
 当 飯田 昌弘 49 公現 1,202
 当 小泉 春吉 72 無現 1,101
 当 小泉 保 64 無現 1,097
 当 鈴代 敦子 46 共現 1,089
 当 腹又 佐藤 一秋男 62 無現 1,081
 当 岩崎 一雄 62 無現 1,077
 当 山田 恵巳 44 無新 1,051
 当 森三 高崎 69 無現 1,021
 当 横山 横山 68 無現 1,021
 当 喜三郎 喜 58 公現 994
 当 清 56 無現 990
 当 梶ヶ谷 勝男 46 無新 945
 当 山口 邦男 44 共現 898
 当 安達 錠代 64 好文 64 無現 862
 当 鈴代 一三 75 無現 801
 当 大庭 豊 50 共現 780
 当 笠原 国昭 41 共新 643
 当 富田 嘉一 56 無現 548
 当 太田 重良 75 無新 144

◇大和市(32—37)

当 石渡 善司 49 無現 1,936

当 笠間 智枝 54 社現 1,712
 当 守矢 保 65 無現 1,640
 当 古屋 好美 46 公現 1,393
 当 近藤 洋 43 無現 1,386
 当 千葉 君男 50 民現 1,374
 当 望月 宏治 47 無新 1,346
 当 小俣 正年 55 公現 1,307
 当 鈴木 保 64 無現 1,230
 当 増田 昭八 53 公現 1,229
 当 吉川 重夫 46 無新 1,220
 当 渡井 正見 55 無現 1,177
 当 山中 寿 49 無現 1,126
 当 大友 勇 42 社現 1,095
 当 比留川 登 60 無現 1,017
 当 篠崎 德治 53 無新 1,009
 当 柏木 尹 62 無現 995
 当 大和 田中 59 無現 984
 当 新倉 英雄 62 無現 973
 当 田中 誠 48 共現 945

1987年7月25日

自治研かながわ月報 第10号(1987年7月号, 通算74号)

発行所 社団法人 神奈川県地方自治研究センター
発行人 飛鳥田一雄 編集人 上林得郎 定価1部 400円
〒231 横浜市中区本町1-7 東ビル 5F ☎ 045(201)1213
振替口座 労働金庫本店 1365-100982 横浜銀行市庁舎支店 317-709629

会員になるには

1. 誰でも会員になります。
2. 申込書は自治研センター事務局にあります。会費は個人会員月1,000円、賛助会員月500円のどちらかを選び、半年または1年分をそえてお申しこみください。
3. 詳細は自治研センター事務局 ☎ 045 (201)1213へご連絡ください。

会員の特典

1. 自治研センターの「自治研かながわ月報」が隔月送られます。
2. 「月刊自治研」(自治労本部自治研推進委員会発行・A5判・120~150ページ定価450円)が毎月無料で購読できます。
3. 自治研センターの資料集が活用でき、調査研究会などに参加できます。